

2012-2013 島根大学

大学概要 PROFILE OF SHIMANE UNIVERSITY





豊かな感性とタフな心を持った大人に!

近年、学生の留学が激減し内向き志向が強まっていると言われていますが、企業は逆に海外進出を加速し外向き志向が強まっています。

そこで島根大学ではフレキシブルな国際交流を推進してグローバルな感性を養成すると共に、ローカルには企業等での社会実体験を通じて、タフで思いやりのある心を涵養する教育を推進すべく準備を始めました。地域社会体験は相互にニーズを掘り起こす産官学連携に貢献すると共に将来の自分の進む道を選ぶ上でも役立ちます。

さらに学部を越えた自由度の高い実学精神を持った学際的教育・研究を推進すべく大学の機能改革に取り組みます。例えば理工・農学等と基礎医学、文系の心理等と臨床医学の相互乗り入れは一つの学部では出来なかった新しい分野での発見や応用、資格取得に向けた実践教育に繋がります。

島根から発信できる人材を育て、島根を活性化することが島根大学の使命と考えています。

島根大学長 小林祥泰

目標

グローバルな感性(外国に行っても物怖じしない)を持ち、社会力(人間力)があり、自ら学ぶことが出来る(応用力がある)人材を養成することを目標とする。

1. グローバルな感性を涵養

- 短期を含めて本学からの海外研修、留学を推進(文科省基準を目標)
- (英語教育の強化:英語の副専攻化、外国人教員の増員)(海外研修の単位化)
- 海外からの留学生増加、日本での就職増加を推進
- (日本語教育強化:国際交流センターに日本語速習コース設置)
- 学内等の留学生と本学学生との定期的交流の促進(交流会、学生寮混住)

2. 社会力(人間力)涵養

- 教育学部で実施している1000時間体験学修、総合理工学部大学院で開始したインターンシップ、医学部の地域臨床実習に類した取り組みを、もっと広い意味での人間力涵養のため、可能な範囲で全学的に実施する。
- 今年度は10月から試行を開始し、来年度から本格実施予定。
- 企業等での体験学修を週に8時間、3ヶ月間程度行うことを基準とする。
- 行政機関、企業その他に依頼して引き受けて貰い、学生の希望とのマッチングを行い、100名程度を目途に試行を行う。その結果を評価し検証した上で来年度の本格実施に移行。

3. 自ら学ぶことが出来る(応用力がある)人材養成

- 学部の壁を越えた学際副専攻システムを、すでにある理工学連携コースなどの大学院だけでなく、学部にも来年度から全学的システムとして導入する。
- 今年中に可能な副専攻コース候補を検討し規則改正を実施しカリキュラム作成。
- 地域での就職率向上や産官学連携研究推進にも繋がる可能性がある。

島根大学憲章

島根大学は、学術の中心として深く真理を探究し、専門の学芸を教授研究するとともに、教育・研究・医療及び社会貢献を通じて、自然と共生する豊かな社会の発展に努める。とりわけ、世界的視野を持って、平和な国際社会の発展と社会進歩のために奉仕する人材を養成することを使命とする。

この使命を実現するために、島根大学は、知と文化の拠点として培った伝統と精神を重んじ、「地域に根ざし、地域社会から世界に発信する個性輝く大学」を目指すとともに、学生・教職員の協同のもと、学生が育ち、学生とともに育つ大学づくりを推進する。

- 1 豊かな人間性と高度な専門性を身につけた、自ら主体的に学ぶ人材の養成
- 2 特色ある地域課題に立脚した国際的水準の研究推進
- 3 地域問題の解決に向けた社会貢献活動の推進
- 4 アジアをはじめとする諸外国との交流の推進
- 5 学問の自由と人権の尊重、社会の信頼に応える大学運営

PROFILE OF SHIMANE UNIVERSITY

CONTENTS

- 01 学長メッセージ
- 02 目標/島根大学憲章
- 03 豊かな人間性と高度な専門性を身につけた、自ら主体的に学ぶ人材の養成
- 05 特色ある地域課題に立脚した国際的水準の研究推進
- 07 地域問題の解決に向けた社会貢献活動の推進
- 09 アジアをはじめとする諸外国との交流の推進
- 11 学問の自由と人権の尊重、社会の信頼に応える大学運営
- 13 法文学部・人文社会科学部研究科
- 14 教育学部・教育学研究科
- 15 医学部・医学系研究科
- 16 医学部附属病院
- 17 総合理工学部・総合理工学研究科
- 18 生物資源科学部・生物資源科学研究科
- 19 法務研究科
- 20 キャンパスマップ(松江)/附属図書館(本館・松江)
- 21 キャンパスマップ(出雲)/附属図書館(医学図書館・出雲)
- 22 学内共同教育研究施設等
- 23 学生生活関係施設

データブック

- 24 沿革・学年暦
- 25 沿革図
- 27 運営組織図
- 29 役職員・経営協議会委員・教育研究評議会評議員
- 31 教職員数
- 32 学部・大学院
- 33 附属図書館
- 34 附属病院
- 35 学生数/附属学校児童・生徒・幼児数
- 37 入試状況
- 41 卒業生数・修了者数
- 43 卒業・修了後の状況
- 45 公開講座・公開授業
- 47 科学研究費補助金等の受入状況
- 48 収入・支出決算額
- 49 外国人留学生の受入状況
- 50 留学状況/奨学生数
- 51 定期刊行文献
- 52 土地・建物
- 53 連絡先一覧
- 54 アクセス

豊かな人間性と高度な専門性を身につけた、自ら主体的に学ぶ人材の養成

島根大学では、学生主体の教育活動を一層促進することを目的に、学士課程教育を構築・実施しています。学士課程教育とは、大学卒業者に授与される学士号にふさわしい能力・資質を定め、体系的に構築された教育課程を通じてそれを獲得していくことを意味しています。質の保証された学士課程教育を通じて、現代社会の要請に応え得る豊かな教養と高い倫理観を備え、かつ、科学的探求心に富む有為な人材を育成します。

全学共通教育

専門分野を超えた能力・知識の育成

全学共通教育とは、専門分野の枠を超えて島根大学の学生に共通に求められる基礎的な力や幅広い知識を育成するための教育のことです。全学共通教育は、その履修を通じて島根大学の全学生が身に付けて欲しい能力・資質の目標(下の①から⑤)を定め、自らの学びをさらに深めることができる人間、現代社会を形成するにふさわしい人間を育成します。

- ① 知の探求者として育つ
- ② 市民社会の形成者として育つ
- ③ 地域社会の創造者として育つ
- ④ 国際社会の貢献者として育つ
- ⑤ 自己の開拓者として育つ



専門教育

基礎から専門へ深化する一貫教育

専門教育は学士課程ごとに定められた教育目標に応じて構築された教育のことです。全学共通教育で培った能力・資質を発展させるとともに、高い専門性を身に付けることを目指し、基礎から専門へと体系的に深化する一貫した教育を行っています。専門性を活かして現代社会の課題を発見し、理性的・創造的に解決する力を育成します。

各学士課程教育において、現代社会に対応した教育を実施します。

- 法文学部 人を知り、人を創る
- 教育学部 体験が育む、プロの教育実践力
- 医学部 人類の福祉と地域医療に貢献する医療人の育成
- 総合理工学部 科学・技術が創る人間の未来
- 生物資源科学部 “いのち”あふれる地球を育む



特色ある全学教育プログラム

大学で学ぶ力を身につけるー初年次教育プログラム・補完教育プログラム

本学では、全学で初年次教育プログラムを展開しています。1年生を対象に、レポート制作や口頭発表等、大学で学ぶ上で必要な技術を習得し、これまでの受身的な学習観から主体的に学ぶ姿勢・意欲を身につけることを目的とした高校と大学を接続する教育プログラムです。

同級生との仲間作りや教員との密なコミュニケーションを促進し、大学における「居場所づくり」を行うほか、専門教育へのやる気を喚起することで新しい環境での円滑なスタートを応援します。また、授業の内容をより理解できるように、英語、数学、物理、化学の教科に関して授業外の修学サポートプログラムも設けています。両教育プログラムは教育開発センターが企画・コーディネートを実施し、島大生らしく学ぶための基礎作りをサポートしています。



島根に学び主体性を育むーフィールド学習教育プログラム

キャンパスから飛び出して、人と触れ合い、自然と触れ合い、文化・歴史と触れ合いながら学問する。これが島根大学のフィールド学習教育プログラムです。学生は、本学が位置する島根県の豊かな自然環境、社会的・文化的環境を〈エリア・キャンパス〉と見立てて、地域の方々や様々なものと実際に触れ合い、知識と体験を連動させながら学習をします。学生がそれぞれの個性を発揮し、自分自身の問題を見つけ、教員を含む仲間と力を合わせてその学生なりの答えを見つける。このような問題発見・解決型学習は、その学習結果のみならず、プロセスそのものがフィールド学習の学びの対象となります。このような、教室では得難い多面的な学びを島根大学では積極的に導入し、サポートしています。



環境マインドを育てるー環境教育プログラム

松江キャンパスでは平成18年3月、出雲キャンパスでは平成20年3月に環境マネジメントシステム(国際規格ISO14001準拠)を取得しました。附属病院を含む総合大学でこの規格を取得したのは、全国でも本学が初めての事例です。これを受けてより環境に配慮し、そして自発的に行動する環境マインドを育む取組みが全学で行われています。このような力を養う環境教育についても、コア科目「環境問題通論」を初めとした多数の授業科目が開講されており、それらが「環境関連科目ガイド」として体系化されています。



特色ある地域課題に立脚した国際的水準の研究推進

幅広い分野にわたって高度な研究成果を蓄積し、それぞれの分野においてアクティブな知能集団として研究活動を推進するとともに、多様化する社会の要請に柔軟に対応できる研究組織の拡充強化を図ります。大学の使命を果たすために、学問の自由の理念に基づき、常に自らの教育研究活動に対する点検・評価を行い、新たな知的創造に向けての努力を行います。

また、大学院における教育研究活動をさらに推進し、地域に密着した個性的な研究及び国際的レベルの独創的な研究を重点的に育成するとともに、人類に共通する知的財産の継承発展や社会貢献を目指す学問領域も大切に学風の構築を行います。

学部の枠を超えた研究活動「プロジェクト研究推進機構」

自然環境と人間の調和を実現する先端的研究

次のような領域について全学的に取り組むべき具体的研究テーマを設定し、本学の特徴ある研究を集中的な経費配分のもとで推進しています。

- 地域社会の課題に対応し、産学官が連携して学術的・文化的・経済的価値を創出する研究
- 医学系と人文社会科学系、自然科学系、工学系の連携融合によって新たな展開が期待される過疎・高齢化等の諸問題の解決を目指した研究
- 本学の研究業績の蓄積・立地条件等を活かした国際的に通用する創造的な研究

重点的に取り組む研究プロジェクトは「プロジェクト研究推進機構」の次のような各部門に位置づけられ、期限と目標を明確にして集中的に進められます。

重点研究部門

中期計画に沿った具体的研究テーマを学際的に推進し、本学の特色ある研究として国際的な研究拠点をめざす研究プロジェクトで構成されます。

萌芽研究部門

数人規模の個別テーマや小規模な学際的テーマで、近い将来本学の重点研究プロジェクトへの発展が期待される研究プロジェクトで構成されます。

特定研究部門

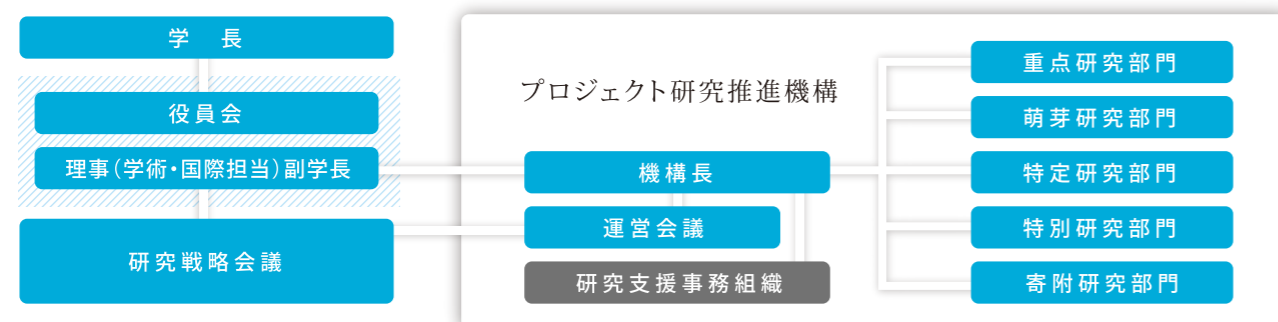
本学が地域貢献、国際貢献等の目的で政策的に取り組むべき研究プロジェクトで構成されます。

特別研究部門

既に外部資金等を獲得している研究のうち、本学が重要な研究と位置付け学内外に向けて情報発信することとした研究プロジェクトで構成されます。

寄附研究部門

外部からの寄附によって設置される研究プロジェクトで構成されます。



平成24年度 重点研究プロジェクト

山陰地方における地域社会の存立基盤とその歴史的転換に関する研究

歴史的 analysis と現状分析から

山陰地方における諸課題の解決を目指す

現在、山陰地方は人口の減少や過疎化をはじめとした諸課題を抱えています。本研究では、これまで島根大学が取り組んできた山陰地方を対象とする共同研究の成果を継承し、同地方が直面する課題の解決を目指します。

山陰地方(特に石見東部海岸部)における地域社会の存立基盤の変容を3期に分け、人口の増減、過疎化の状況や消滅集落を把握し、諸産業の盛衰について調査を行います。その成果をもとに、流通・交通の変化や自治体の経済政策、産業の担い手育成、金融資本の動向等を総合的に把握し、歴史的 analysis と現状分析の結合を通じて過去の経済政策の効果を検証します。併せて、特定地域における人口の将来予測や想定される事態予測を行うことで、山陰地方における地域社会の未来像を示すとともに、産業の担い手育成や自治体等の政策に関しても提言を行うことを目指します。また、本研究の推進担当者は30～40代が中心であり、若手研究者の育成も期待されます。



大田市温泉津町今浦の海岸

コホート研究プラットフォームを活用した高齢者難治性疾患予防研究

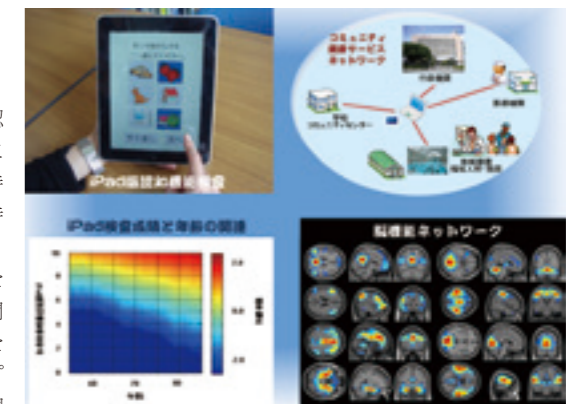
医学・社会医学を統合した

学際的研究により健康長寿社会を目指す

島根県は日本でも有数の高齢県であり、今後さらに高齢化が進むことから認知症の予防は最重要課題になると予想されます。認知機能低下を予防することができれば、本人、家族はもちろん社会的な負担の軽減に繋がることが期待されます。本研究は、高齢化先進地域を多く有する島根県に立地する大学の特性を活かし、先進的な研究と地域貢献を両立させようとする取り組みです。

これまで培ってきたコホート研究を継続し、予後調査も含め内容のさらなる充実を図ります。また、認知症予防のための体制構築を試みるとともに、認知機能低下に関する学際的な学術研究を推進します。コホートの整備を進めることで、同様の研究を行うチームとの国際的な共同研究を促進し、「10万人コホート」のようなナショナルプロジェクトへの参画も視野に入れるほか、医学部や人文社会科学系の学生に健康調査やデータ解析等を体験させることで、「現場体験」に基づく教育も実施します。

※コホート…特定の属性や外的条件(例えば地域)におかれた集団を意味する



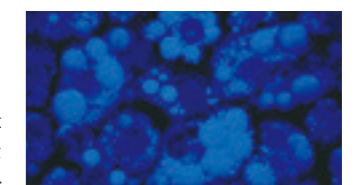
S-グリーン・ライフナノ材料プロジェクト

島根大学発のナノテク材料・技術で

イノベーションの創出を目指す

医・理工・農連携のもと、島根大学が開発してきた「低コスト」「簡易」「実用性」、そして「安心」「安全」な技術開発を基盤とし、低炭素化社会や健康長寿社会の実現に向けたイノベーションの創出を目指すプロジェクトです。これまで島根大学が取り組んできた「S-ナノテク」、「S-匠ナノメディシン」プロジェクトを継承し、更なる発展を目指します。

本プロジェクトは、グリーンイノベーション、ライフイノベーション、基盤技術の3つのグループから構成されます。島根大学が開発した独自のナノ材料をもとに、「グリーン」では、低コスト太陽電池や新しい蓄電・熱電技術の開発、「ライフ」では、ナノ材料による早期診断・治療技術、食品応用技術等の開発を目指します。また「基盤技術」では、材料・評価の基盤技術の開発を行います。これらを継続的に発展させるための学内連携・連携教育を展開し、次なる大型研究プロジェクトへと発展することを目指します。



酸化亜鉛ナノ粒子による脂肪細胞の可視化



新規チタン酸バリウム系誘電体

100 nm

地域問題の解決に向けた社会貢献活動の推進

山陰地域・環日本海地域という本学の置かれる地域の歴史的・地理的特性を生かして、人類に共通の財産としての学術・文化の継承発展を担い、さらに、地域固有のテーマに関する知的創造を通じて普遍的な真理を探求するとともに、本学が有する知的財産を活用して、教育・研究・文化の拠点として地域社会の発展に貢献します。このため、大学全体として地域のニーズに応える体制を構築することにより、地域に必要とされ、信頼される大学を目指します。

地域に飛び出す学生たち

スポーツを通じた交流

ボート部は水の都ならではの行事「レガッタ」の運営に参加するとともに、ボート競技の普及活動に積極的に関わっています。さらに各種スポーツ競技団体は、地域で開催される競技会へ補助員として参加、また学校等に向いて学童に実技指導等を行っています。



ボランティア活動

ボランティアに取り組む学生が多いのも島大の特徴の1つです。療養所や保育園との交流、遊びを通じて世代間交流を図るプレプレまつえキッズ、献血推進サークル「ぐっば」等々、笑顔と心で地域との交流を深めています。またボランティア活動やサークル活動などの正課以外の諸活動を頑張る学生にポイントを付与することにより応援する、ピピットポイントという大学独自の制度があります。
<http://shiengp2.jn.shimane-u.ac.jp>



大学の開放

公開講座・公開授業

島根大学にはバラエティーに富んだ公開講座・公開授業、そして市民に開放された施設が用意されています。生涯学習教育センターを窓口にして、これまで多くの公開講座・公開授業を実施してきました。これからはさまざまな講座や授業、イベントを企画提供し、地域市民の生涯学習意欲に応えていきたいと考えています。



家庭菜園で農業機械を使う時



脂質栄養と健康



金曜日のドイツ語

春と秋の農場開放日

松江市上本庄町の「附属生物資源教育研究センター」(通称:本庄農場)において、春の桜開花期と、秋の収穫期に一般開放事業を実施しています。地域の人々にとっても恒例行事となっています。



産学連携の具体例

生活習慣病とアレルギー疾患を予防する「えごま玉子」の研究開発

医学部橋本道男准教授・森田栄伸教授は、n-3脂肪酸である α -リノレン酸やドコサヘキサエン酸(DHA)が多く含まれる「えごま玉子」を島根県、(有)旭養鶏舎、(株)山陰ネッカーリッチ、JA石見銀山等と共同開発・商品化し、販売しました。2007年に島根大学医学部橋本道男准教授はエゴマ種子混合餌で鶏を飼育し産出された卵には、その機能性が注目されている α -リノレン酸やDHAが多く含まれることを実証し、2008年には島根県商工連合会の「しまね地域資源産業活性化基金助成交付金事業」として採択されました。その事業により、(有)旭養鶏舎において産出された α -リノレン酸強化鶏卵を毎日2個ずつ102名の被験者に供与し、血液中の生化学的検査に加えアレルギー抗体価と脂肪酸分析を行いました。その結果、6ヶ月間「えごま玉子」を摂取することで赤血球膜の α -リノレン酸やDHA等のn-3脂肪酸が増加し、血糖値の上昇が抑制され、さらには血清抗原特異的IgE値が低下することが分かりました。2009年9月から(有)旭養鶏舎が α -リノレン酸強化鶏卵「しまねのえごま玉子」として販売を開始、全国に販売拡大を図っています。この「えごま玉子」は地域振興への貢献により、平成21年度島根県の「安全で美味しい島根の特産品」第一号に認証されました。



省エネ住宅を実現する調湿木炭「炭八」の利用技術の開発

出雲土建株式会社、出雲カーボン株式会社(出雲市)と島根大学の様々な分野の教員とが共同研究を行い、床下や天井など住環境で調湿材として利用できる高性能な木炭を開発し、「炭八」として商品化に成功しています。今回、総合理工学研究科の中井毅尚准教授は、調湿木炭「炭八」をマンションなどの天井裏などに敷設する効果について共同研究を行い、省エネ効果が期待できることを明らかにしました。天井に「炭八」を敷設した部屋と敷設しない部屋とを用意して実験を行い比較した結果、「炭八」を敷設した部屋ではエアコンの消費電力が、夏場の冷房時には約24%削減でき、冬場の暖房時には約11%削減できることが確認されました。このように、天井などに「炭八」を敷設することによりエアコンの消費電力が節電でき省エネに貢献できることがわかりました。これは、調湿木炭「炭八」の断熱・蓄熱効果が大きな要因と推測されていますが、その原因については解明を進めています。



天井に調湿木炭「炭八」を敷設した状況

これまでの継続した共同研究から、この木炭を効果的に利用することで除湿、カビ・ダニの発生抑制、防音、省エネなどに効果のある「炭の家」(賃貸マンション)を開発し出雲市を中心に建設が進められ、住環境の改善や地球環境問題の対応につながる技術として多方面から全国的に注目を集めています。

このように地域の企業と島根大学とが連携して研究・開発を行い、その成果が実用化され地域産業の発展に貢献しています。さらに、共同研究の成果は、日本建築学会などをはじめ多数の学会で報告されており、学術研究の発展にも貢献しています。

医師やメディカルスタッフを支援するマタニティ白衣の研究開発

この白衣は、島根大学医学部附属病院ワークライフバランス支援室が、大東白衣(雲南市)および日昇産業(広島市)と連携し、産学共同で開発しました。開発の過程で出雲キャンパスに勤務する妊娠中の医師、メディカルスタッフや教員がモニターとして協力し、機能性とデザイン性に配慮した様々な改良を重ねて「ありそうで、実はなかった」画期的なコートタイプのマタニティ白衣が完成しました(2011年5月30日 島根大学より特許出願済)。この白衣は共同研究先の大東白衣と日昇産業から市販されており、さらにワークライフバランス支援室は、職員・学生であれば誰でも、必要な時期に利用できるレンタル制度を開始しています。また、開発したマタニティ白衣については、全国に広く報道されたことで、病院や研究機関からの問い合わせも多く、今後広く普及するものと期待されます。



コートタイプのマタニティ白衣

アジアをはじめとする諸外国との交流の推進

最先端の学術・文化に関する情報を世界に発信するとともに、研究者・技術者・学生による学術・技術・文化の交流を通じて国際社会に貢献します。特に、環日本海地域との国際共同研究、学術交流及び留学生交流に重点を置きます。人情に厚く、住みやすい島根県に所在する本学の歴史的・地理的特性を活かして、日本の自然と文化に触れてもらい、外国人研究者との共同研究や「未来からの大使」としての留学生の教育や交流などを通じて大学の最新情報を世界に発信します。

学生交流

島根大学では、海外の協定校のうち「学生交流に関する協定書覚書」を締結している協定校から交換留学生を受け入れるのと同時に、島根大学の学生を学籍上「在学」の扱いで、その大学に交換留学生として派遣することにより学生の相互交流を推進しています。

また、交換留学制度以外にも授業の一環として、春や夏の長期休暇の時期に米国、カナダ、韓国、中国での海外研修を実施しています。この研修は、ホームステイ、文化講座の受講、現地学生との交流会等盛りだくさんの内容になっています。この研修に参加し、自身の成長を体感した学生が、改めて交換留学に申込みケースもあります。

学生の国際通用性を高めるため、2011年に本学独自の奨学金制度「島根大学海外派遣学生支援制度」を創設し、海外留学・研修を推進しています。

中国 寧夏大学との連携による夏期研修

寧夏回族自治区にある寧夏大学と北京で約10日間に渡る短期研修を実施しています。この研修では、特別講義、名所旧跡見学、中国人学生との交流会等を通じて、中国に対する理解を深めることができます。また、日本と中国との違いだけではなく、中国国内においても西北部の銀川市と首都の北京市とでは、文化や気候・風土に非常に大きな違いがあることが体験できます。



万里の長城を訪れた時の様子

米国 アーカンソー大学との連携による春期海外研修

アーカンソー大学で毎年春に本学の学生が約3週間の海外研修を行っています。この研修はアーカンソー大学英語学習センターでの授業、ホームステイ体験、カンパセーションパートナーとの交流、豊かな自然環境の中での野外活動等、様々な体験を通して実践的な生きた英語を学びます。



レセプションの様子

交流協定締結校

大学等名	国名	協定締結日	大学等名	国名	協定締結日
セントラル・ワシントン大学	アメリカ合衆国	1982.3.26	山東大学	中華人民共和国	2005.7.20
ケント州立大学	〃	1982.8.31	浙江大学教育学院	〃	2006.3.31
カリフォルニア大学デイビス校	〃	1986.2.11	釜山教育大学校	大韓民国	1990.3.23
アーカンソー大学	〃	1993.3.1	慶尚大学校	〃	1991.3.5
コロラド・デンバー大学医学部	〃	2006.2.23	慶北大学校	〃	1991.3.6
テキサス大学ダラス校	〃	2007.8.10	ソウル産業大学校	〃	1998.4.22
フロリダ大学教養学部言語文学文化学科	〃	2009.12.4	延世大学校	〃	1989.6.3
アリゾナ大学	〃	2010.5.26	ジャン・ムーラン・リヨン第3大学	フランス	1990.11.24
東北林業大学	中華人民共和国	1989.12.28	オルレアン大学	〃	2002.7.12
南京林業大学	〃	1993.4.15	モンゴル科学技術大学	モンゴル	1999.3.24
中国農業大学	〃	1996.12.29	モンゴル健康科学大学	〃	2002.10.4
寧夏大学	〃	1997.8.18	トリバン大学	ネパール	1991.12.8
北京林業大学	〃	1997.8.23	アングラサ大学	インドネシア	1997.5.6
吉林大学	〃	1999.2.1	ハノイ医科大学	ベトナム	2005.10.17
河北師範大学	〃	2002.7.29	トリア大学第二学部	ドイツ	2008.11.20
大連大学	〃	2003.6.30	リンショープン大学	スウェーデン	2005.4.21
上海交通大学医学院	〃	1987.6.27	キングモンクット工科大学	タイ	2010.12.23
寧夏医科大学	〃	2004.2.27	トンブリ校生物資源テクノロジー研究科	〃	2011.2.2
北京師範大学	〃	2004.3.18	マヒドン大学シリラジ病院	〃	2011.2.2
中国人民大学経済学院	〃	2005.4.14	ダッカ大学	バングラデシュ	2011.4.12

2012.5.1現在



交流協定締結校がある国

島根大学・寧夏大学国際共同研究所

島根大学と寧夏大学は、長年にわたる教育・研究分野における協力により、多くの研究成果を収め、国際協力の経験を蓄積し、良好な関係を築いてきています。一層の協力と交流を展開していくために、両大学での協議を経て、JICAの円借款により、2004年に島根大学・寧夏大学国際共同研究所(以下、研究所)を設置しました。この研究所設置の背景には、寧夏大学が「西部発展研究センター」を設置し、西部大開発、特に寧夏南部山区の研究実績を積み重ね、現場との関係でも顕著な成果を上げていること、島根大学が日本国内の食料・農業技術に関する研究や中山間地域など条件不利地域の地域発展の研究においても、数多くの実績をもつことが挙げられます。

本研究所は、中国西部内陸部に設置された日中の大学による共同研究所として唯一のもので、独立した建物を有し、日本人研究員が滞在しています。この立地条件と研究環境を生かして、本研究所では、都市と農村との地域格差の是正、中山間地域(条件不利地域)の社会・経済の活性化、環境と調和する開発方式、農村住民の健康の増進などを主要なテーマとして学際的な共同研究を行ってきました。今後も研究成果を当該地域の現場に普及し、さらに東アジアをはじめとする世界に発信するとともに、人材の育成と教育交流、研究交流を積極的に推進し、中国西部における学術ネットワークを構築し、国内外の研究者に開かれた中国・西部地域研究の拠点づくりを目指します。



研究所の業務内容

- 研究事業(主なテーマ)
 - 「寧夏南部山区と日本の中山間地域の持続可能な発展に関する研究」
 - 「生態系・環境の保護と再生に関する調査研究」
 - 「農村経済と社会発展の比較研究に関する調査研究」等
- 学術交流、国際学術フォーラムの開催(日本・中国)
- 図書館資料の蓄積と提供
- 中国の地方政府への政策提言
- 島根県、松江市等の国際交流事業への協力

学問の自由と人権の尊重、 社会の信頼に応える大学運営

教育研究環境の向上・充実を図るために、教員組織と事務組織その他全ての職員組織を有機的に機能させ、大学においては学生へのサービス体制と教育研究、附属病院においては教育研究及び医療を重視した管理運営を目指します。このため、本学独自の多面的な自己点検・評価及び外部評価を活用し、学長のリーダーシップと補佐体制の充実による企画・立案機能の向上と迅速かつ合理的に目標や計画の実行が可能となる管理運営組織を構築するとともに、その責任体制を明確にします。また、教職員・学生の声が反映され、透明性のある管理運営を行うとともに、教職員にとって働きがいのある職場環境の充実を図ります。

教職員・学生みんなの「声」が創る島根大学



島根大学では、学生の現状を把握し、彼や彼女らの声を聞き上げ、教育改善を図るべく、入学時アンケート、初年次教育ポストアンケート、授業評価アンケート、卒業生・修了生アンケートを教育開発センター中心に実施しています。各アンケートの結果は、教員にフィードバックされ、授業を改善する際の基盤として位置づけられます。

FD・SD(大学教職員の能力向上・資質開発)活動は、従来のイベント型に加え、教職員にとって身近なFD活動として、昼休みに食事をしながらFDについて学習・情報交換を行う「ランチョンFD」も展開しています。また、職員を中心に「ゆにすた」と銘打ったSD・FDの連携を図る活動も行っています。両取り組みには教員・職員双方から参加があり、そこでは活発な議論が交わされています。

このように島根大学では、学生の声や教職員の協働をもとに、よりよい大学環境づくりを邁進しています。

島根大学の「今」を伝える

教職員・学生の活動を広く発信することで、地域に根付いた大学を目指しています。2011年4月には、新たに広報室を設置し、これまで以上に機動的・戦略的な広報活動に努めています。

本学広報誌「広報しまだい」は、四半期ごとに毎号43,000部、島根県全域及び鳥取県の一部の地域等に配布しており、教員の研究紹介や学生の活動を地域の皆さまに紹介しています。

また、教職員・学生の活動を共有し、双方向交流を可能とするため、公式Facebookページを立ち上げました。大学全体のコミュニケーションツールとして活用するとともに、学外の皆さまへの情報発信の場にもなっています。



ワークライフバランスの実現

島根大学では、構成員の職場環境を整備し、組織を最大限に機能させることにより、教育研究環境の向上・充実を図っています。

男女共同参画推進室では、本学の就業規則等を基に妊娠、出産、育児及び介護に関する概略を紹介するパンフレット並びに育児休業を取得したことがある本学男性職員から寄せられた子育てに関するコラムを集録した冊子「育児するお父さんへのエール」を作成し、学内の教職員に配付しています。

また、松江キャンパスでは、派遣型病後児保育を実施し、出雲キャンパスでは「病児・病後児保育」及び公設の学童保育の終了時刻以後に保護者の勤務終了まで子どもを預かる「学童の一時保育」を実施しています。附属病院に設置している保育所では、土日祝日の開所(第3土日・年末年始は除く)、終夜保育(週1日)、夕食付延長保育、一時保育など職員の利便向上に努め、出産後の職場復帰に寄与しています。

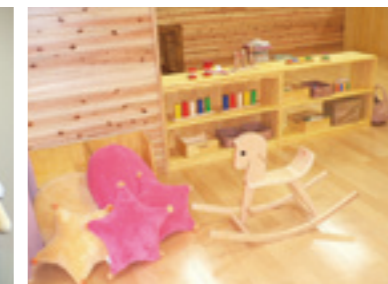
医学部附属病院では、平成19年3月に女性医師・すべての医療従事者が安心して働くことができる病院として「働きやすい病院評価」の認証を受けました。また、病院の診療支援施設に「ワークライフバランス支援室」を設置し、働きやすく学びやすい医学部、附属病院を目指して様々な事業をおこなっています。平成23年度には職場環境改善への取り組みとして、本学職員からの要望をきっかけに産学共同で「マタニティ用ドクターコート」を開発しました。平成24年4月からはマタニティ白衣のレンタル事業を開始し、妊娠中でも快適に着用できる白衣は、女性医師のストレスを緩和し、仕事へのモチベーションを保ちながら産休前まではつらつと勤務できると好評を得ています。



冊子「育児するお父さんへのエール」



開発したマタニティ用ドクターコート



医学部附属病院「うさぎ保育所」

環境に関する島根大学の社会貢献

島根大学では、平成21年度より毎年10月に環境への取り組みを地域の皆様にも紹介できる場として「環境報告会」を開催しています。報告会では9月に発行する『島根大学環境報告書』で前年度の環境への取り組みについて公表した内容のうち、特に紹介したい内容を松江キャンパス・出雲キャンパスからそれぞれ2件程度選び、より詳しく説明します。

環境報告会は、環境関連科目(環境問題通論B)の授業のコマを活用することで、地域の皆様が学生と共にこの報告会に参加でき、また、直接意見交換ができる貴重な場となっています。



法文学部 人文社会科学研究科

Faculty of Law and Literature
Graduate School of Humanities and Social Science

人を知り、人を創る

私たちは、他者との関わりをなかで自己という存在を強く意識しヒトから人へと成長していきます。人を知り、人を創る技を磨くことが、社会を、国家を、世界を知ることにつながっていくのです。全国屈指の少人数教育に情報技術や国際交流をとり入れた法文学部をステップとして、世界へ、人間探求へと飛躍してください。



教育学部 教育学研究科

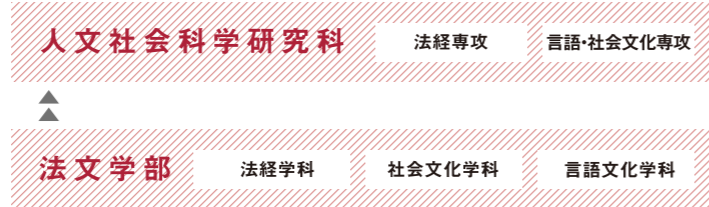
Faculty of Education
Graduate School of Education

体験が育む、プロの教育実践力

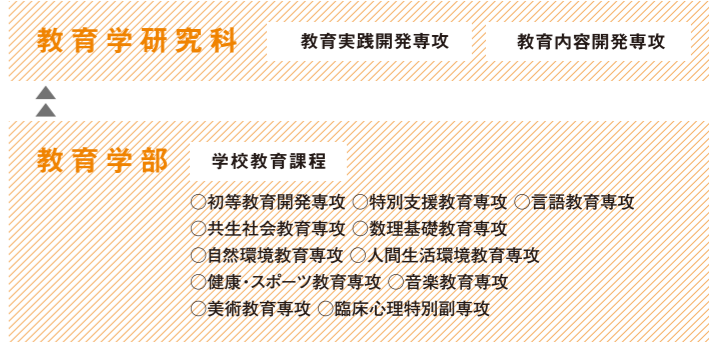
山陰地域唯一の教員養成専門学部です。21世紀の教育改革をリードし、地域の教育課題の解明と解決に積極的に取り組むとともに、1000時間体験学修等の独自の教師教育プログラムにより、教職への限らない情熱と様々な教育的課題に対応できる優れた教育実践力を備えた教員の養成を目指します。



■ 法文学部ホームページ
<http://www.hobun.shimane-u.ac.jp/>



■ 教育学部ホームページ
<http://www.edu.shimane-u.ac.jp/>



法経学科

法経学科では、経済学と法学の両面から社会について学び、民間企業の法務・金融担当者や司法書士、行政書士等の法律経済関係の専門、一般職に就く人を育成するだけでなく、法科大学院やビジネススクール、研究者養成大学院等に進学する人を育成します。また地域には、環境、少子高齢化、地方分権、中山間地域、地域振興等、解決すべき課題が山積みしています。これらの課題の解決に必要とされる法学・経済学の基礎的な知識と応用力を身につけ、分析能力・政策立案能力や問題処理能力を養うことによって、国・地方公共団体等の行政部門やNPOで活躍できる人を育成します。



社会文化学科

社会文化学科は現代社会・歴史と考古・福祉社会の3つのコースに分かれています。所属コースは、1年生の後期に決定されます。

現代社会コース
人間と環境、地域と人間の相互関係、地域社会の構造や機能、文化の特徴等を体系的に理解する視点を養います。座学中心の講義や演習に加えて、実験や観察、社会調査やフィールドワーク等の実習教育を重視し、データ収集と分析技法を身につけた人を育てます。

歴史と考古コース

歴史学では日本史・東洋史・西洋史・現代史について、考古学では日本考古学を中心として、それぞれ専門的に教授し、理論と実地調査への認識を培っています。学生研究室は、学生自身が自主的に運営しており、分野・時代ごとの自主ゼミが開設されるほか、研修旅行も毎年企画しています。

福祉社会コース

現代社会の重要テーマである社会福祉の問題に取り組み、地域社会に貢献できる人の育成を目指します。講義や演習に加え、福祉現場での実習を通して社会福祉の全体像を学ぶことができます。本コースでは所定の科目を履修すれば、社会福祉士国家試験の受験資格が取得できます。



言語文化学科

言語文化学科では、東洋・西洋の言語文化について古代から現代まで幅広く学ぶことができます。学生の皆さんは2年生以降、所属する分野を自由に選び、自分が興味を持つ事柄を深く学びながら、言語文化を理解する方法を習得し、論理的に思考を表現する力を身につけ、語学力を高めていきます。

日本・東アジア言語文化分野

日本語学・日本文学の分野では、古代から現代に至るまでの日本語と、それによって生み出された文学について幅広く学ぶことができます。中国語学・中国文学の分野では、遠く神話、甲骨文字の時代から、現在活躍中の中国作家の作品に至るまで、広く研究することができます。

英米・ヨーロッパ言語文化分野

イギリスとアメリカ、及びドイツ・フランス語圏の言語、文学、文化の研究を通して幅広い視野、分析力を身につけます。また、様々な演習の授業を通じて各言語の読解力とコミュニケーション力を高めます。また、異文化交流に積極的な学生が多く、毎年何人も語学研修や海外留学に出かけています。

文化の創造と理解分野

人が生み出したものを理解し、その理解をもとにしてさらに創造する—この分野では、継承・衝突・創造が繰り返す人間の文化活動を研究の対象にします。また、芸術・文学・映画・音楽などの作品にも実際に触れながら、文化理解のための技術を習得していきます。



初等教育開発専攻

現代社会における教育の使命を考えながら、確かな知識(理論)をもとに実践に取り組む資質・能力を備えた小学校の教師を育成します。理論と実践との往還を通して、よりよい授業や学級経営、学校経営を志向し続ける高度な専門性を獲得できます。

特別支援教育専攻

学習や生活上の困難を抱えた心身に障がいのある幼児・児童・生徒等を対象とした個人差を配慮した指導の基礎となる知識や教育実践力を身につけた教師の育成を目指します。

共生社会教育専攻

教職に関する基礎的学力はもちろん、歴史学、地理学、政治学、社会学、社会科教育学等の専門分野に立脚した教科内容の研究能力を育成し、社会科系諸教科の素養を養います。

言語教育専攻

<国語教育コース>

日本語学、古典文学、近代文学、漢文学、書写・書道、国語科教育学の6分野で専門の授業を行い、教員・社会人に相応しい実践的な国語力やコミュニケーション能力を修得していきます。

<英語教育コース>

英語教育の理論と実践を学ぶのはもちろん、英米文学の原典を読んでその真髄に触れたり、また会話や作文を通しての英語運用能力向上にも力を入れています。

人間生活環境教育専攻

家政教育(衣・食・住):幼児教育(保育・子育て):技術教育(ものづくり・栽培)などの人間が生活していく上で基本となる知識を身につけます。さらに、それぞれの領域において、専門知識を身につけると共に、実習によって実践力を備えた教員を育成することを目指しています。

数理基礎教育専攻

計算や数式・図形を理解・操作する能力及び論理性を身につけ、数学について深く理解し、問題や課題を見つけ教材化する力を持ち、的確な指導と説明のできる教師の育成を目指します。

自然環境教育専攻

理科教員に必要な自然科学に関する基礎的知識・技能や探究方法を身につけるとともに、子どもの知的好奇心を刺激し、自然を探究する楽しさを伝えることができる指導法や教材開発について学びます。

美術教育専攻

基礎的な造形能力や美術教育理論を習得する授業と、それらの専門性を深める授業、さらには豊富な臨床的教育体験等でカリキュラムを構成し、造形と美術教育の理論及び実践的能力を身につけた教師の養成をします。

健康・スポーツ教育専攻

保健体育の理論や実践力を身につけるとともに、地域の子どもを対象にした様々なスポーツ活動支援を通して、子どもの理解を深め、発達段階に応じた適切な指導が行える専門的能力を育成します。

音楽教育専攻

声楽、ピアノ、管弦打楽器、作曲、音楽学、音楽教育学の各分野のうち、専科として1つの分野を深く追求するとともに、副科として幅広い分野を学ぶことができます。

臨床心理特別副専攻

臨床心理学の多様な技法と理論をベースに児童、生徒心理の理解に優れた専門性を発揮できる教師になれるよう、学びます。また大学院に進学し、臨床心理士資格取得を目指すこともできます。

大学院 **人文社会科学研究科**

- 法経専攻(法政コース・地域経済コース)
- 言語・社会文化専攻(言語文化コース・社会文化コース)

入学した大学院生は、各自の研究課題や修了後に目指す進路に応じた4コース(法政コース、地域経済コース、言語文化コース、社会文化コース)のいずれかに属し研究のスキルをみがき、各分野の高度な専門的知識と技法を習得します。さらに、学際的・国際的 な研究を通じて、総合的実践的能力を育むことも目指します。

■ 人文社会科学研究科HP <http://www.hobun.shimane-u.ac.jp/daigakuin/>

大学院 **教育学研究科** ●教育実践開発専攻 ●教育内容開発専攻

急速に国際化、情報化が進化する現代社会において、新時代を担うべき優れた教員を養成することが重要課題となっています。本研究科は、「スクール・リーダー」となる高度な資質を有する学校教員の養成を目的とし、山陰地域における教員養成基幹大学院として現職教員及び学部卒業生の双方を対象に高度な専門性に裏打ちされた、地域の教育界を担う人材の育成を目指しています。そのために、学校教育現場における学校教育研究、授業研究の力を養成する「教育実践研究」科目を開設するなど、学部教育のカリキュラムとの有機的関連性を重視しています。また、教職経験3年以上の現職教員を対象に、通常の2年課程に替る「1年短期履修コース」を設置し、教育課程・教育方法等に特段の措置を講じることで現職教員が自ら求める専門職性の向上に努めています。

■ 教育学研究科HP http://www.edu.shimane-u.ac.jp/gakubu_daigakuin/

医学部 医学系研究科

Faculty of Medicine
Graduate School of Medical Research

次世代を担う医療人の育成と 先進医療の地域への還元

生命の尊厳と患者の権利・人格の尊重を教育の理念とし、豊かな教養と高い倫理観、科学的な探求心と総合的な判断能力を身につけ、時代の要請に応じて社会に貢献する医師・看護師を養成することを目指しています。



医学部附属病院

University Hospital

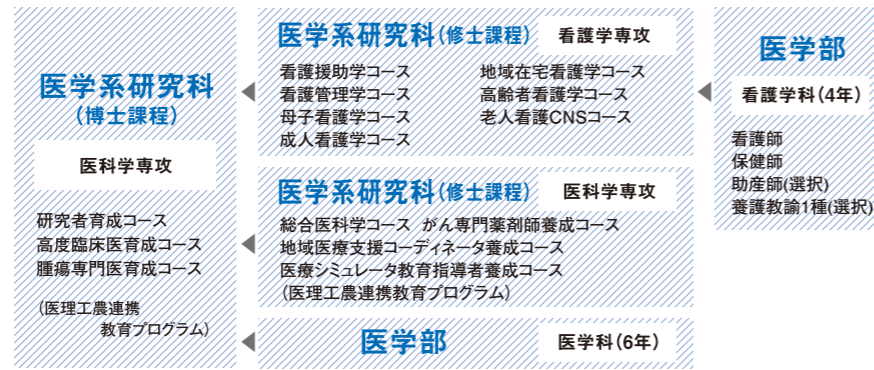
理念『地域医療と先進医療が 調和する大学病院』

目標

- 患者さん中心の全人的医療の実践
- 人間性豊かな思いやりのある医療人の育成
- 地域医療人との連携を重視した医療の提供
- 地域社会に還元できる研究の推進



■ 医学部ホームページ
<http://www.med.shimane-u.ac.jp/>



■ 島根大学医学部附属病院HP
<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/index.html>

昭和54年に開設以来、県下唯一の特定機能病院として医療人教育、高度医療提供、臨床研究に当たってきました。都道府県がん診療拠点病院としてがんプロフェッショナル養成プログラム、大学病院連携高度医療人養成プランを推進中です。「病院機能評価」、「プライバシーマーク」、大学病院初の「働きやすい病院評価」、附属病院として全国初の「ISO14001(環境マネジメント)」も取得し、卒後臨床研修評価機構の認定も受けています。文科省GP以降も多くのスタッフ、学生を海外病院研修に派遣し実践的臨床教育に取り組んでいます。平成23年6月に緩和ケア病棟と腫瘍センター病棟の併設やチーム医療を重視した重症度別ケア、高度医療に対応した新病棟が完成しました。耐震・免震は元より地下水の活用、自家発電機能も拡充し防災対応機能も充実させています。進行中の既設病棟、外来・中央診療棟の改修は、平成25年3月に完了予定で、来年度から大学病院としての本格的な診療・教育・研修が可能となります。

医学科

一般入試、推薦入試の他、へき地出身者を対象とした地域枠推薦入試、学士編入を行い、多彩な人材を募集しています。入学後は、豊富な教養科目により豊かな創造力・幅広く柔軟な思考能力・高いコミュニケーション能力を培うとともに、地域医療の現場体験ができる早期医学体験実習、実習が充実した基礎医学科目、チュートリアル教育を取り入れた臨床医学科目を通して、高度な専門医学知識・医療技術を学びます。臨床実習は、医学部附属病院の他、大田総合医育成センターや県内の45医療施設を選択して行います。地域医学を学習できる機会が多いことも特徴です。



また、国際的な場で活躍できるべく徹底した医学英語の習得、先進医療の体験や学習、海外医療施設での実習の機会も用意しています。

看護学科

医療の高度化が急速に進展する一方、超高齢社会の到来によって、人々の看護に対するニーズは益々増大し、多様化してきています。

看護学科ではこうした社会の要請に応え、医療機関であれ地域であれ、一人ひとりの健康ニーズを的確に把握し、適切に援助していくことのできる専門性の高い有能な看護職を養成したいと考えています。

課題を論理的に分析し解決していく問題解決能力や、科学的根拠に基づいて援助を実践する能力、ケアの対象者との信頼関係を構築していく対人関係能力など、総合的な看護実践能力の基礎を身につけられるよう、少人数による課題解決型の演習や、病院や保健所、社会福祉施設等での実践とおとずろ学臨地実習、ゼミ形式の卒業研究など、多様な方法と場を設定した教育に力を注いでいます。



大学院

医学系研究科

- 《博士課程》●医科学専攻(研究者育成コース 高度臨床医育成コース 腫瘍専門医育成コース)
- 《修士課程》●医科学専攻(総合医科学コース がん専門薬剤師養成コース
地域医療支援コーディネータ養成コース 医療シミュレータ教育指導者養成コース)
- 看護学専攻(看護援助学コース 看護管理学コース 母子看護学コース
成人看護学コース 地域在宅看護学コース 高齢者看護学コース 老人看護CNSコース)

医学及び看護学に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめて、医学及び看護学の発展と人類の福祉の向上に寄与することを使命としています。医学の分野においては、研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識を備えた優れた研究者の養成、ならびに優れた研究能力を備えた臨床医・腫瘍専門医の育成を、看護学の分野においては、広い視野に立って精深な学識を授け、看護学における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力・人間性を備えた優れた研究者又は高度専門職業人の養成を目的とします。

■ 医学系研究科HP <http://www.med.shimane-u.ac.jp/graduate/index.html>

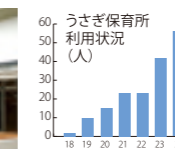
320列MD-CT(多重検出器列CT)

本装置は世界でもトップレベルの超高速・高性能機で、平成22年度に導入しました。心臓全体を0.35秒で撮影可能で冠動脈造影も外来で容易に出来るようになりました。肺や関節などのダイナミックな機能検査にも活用されています。



院内保育所「うさぎ保育所」

子育て支援の一環として、平成18年に定員25名で開設。保育希望者の増加に伴い、平成24年には定員68名に増員しました。院内保育所と同じ施設内では病児・病後児保育、学童保育もしており、保育環境の充実に努めています。



防災対策

新病棟は耐震・免震は元より、地下水の活用等で大災害に備えた造りとなっています。出雲キャンパスでは日頃からガス発電でコジェネレーション発電しています。非常用自家発電装置は2000kWを約5日間供給可能です。



「働きやすい病院評価」「病院機能評価(Ver.5.0)」

平成19年3月に、女性医師・すべての医療従事者が安心して働くことができる病院として「働きやすい病院評価」の認証を受け、平成20年3月には、病院の現状を様々な角度から確認し、基準を満たした病院として「病院機能評価」の認定を受けました。



クリニカルスキルアップセンター

本センターは、体系的カリキュラムのもとに医療技術訓練を行うことで、優れた技術を備えた医療人を育成するために平成21年度に開設されました。模擬ICUにシムマンなど高度な機能を持つシミュレータ機器を多数揃え専任講師と救命救急士の助教による研修を常時行っています。



ボランティアコンサート

病院1階待合ホールで月1回コンサートや落語、手品など多彩なイベントを開催しており、毎月患者さんを楽しみにして頂いています。



小児センター病棟にミッフィー

新病棟の小児センターは子供達に大人気のディックブルーナのブルーナカラーとミッフィーでコーディネートしました。病棟全体を飾ったのは世界でも初めての試みです。



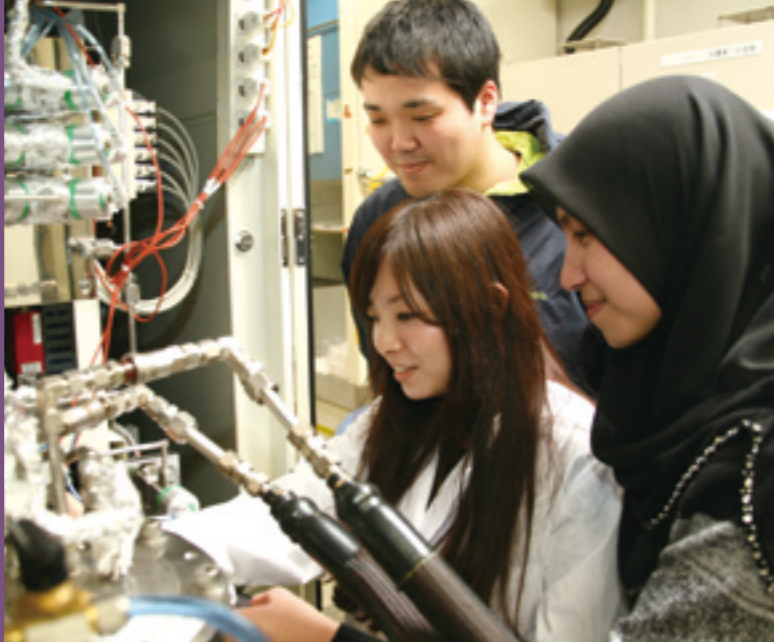
©Meraba by
附属病院小児センター

総合理工学部 総合理工学研究科

Interdisciplinary Faculty of Science and Engineering
Interdisciplinary Graduate School of Science and Engineering

科学・技術が創る人間の未来

最新の手法を駆使して自然科学を解明しようとする理学系分野と、
未来の最先端科学技術を担う工学系分野が、既存の学問分野の枠を越えて
1つの学部で総合、融合、一体化した全国的にもユニークな学部のひとつです。
素粒子サイズから地球サイズまで、さまざまな対象を科学的に捉え、
基礎理論から先端技術への応用まで幅広く扱う学際教育・研究システムを特色としています。



生物資源科学部 生物資源科学研究科

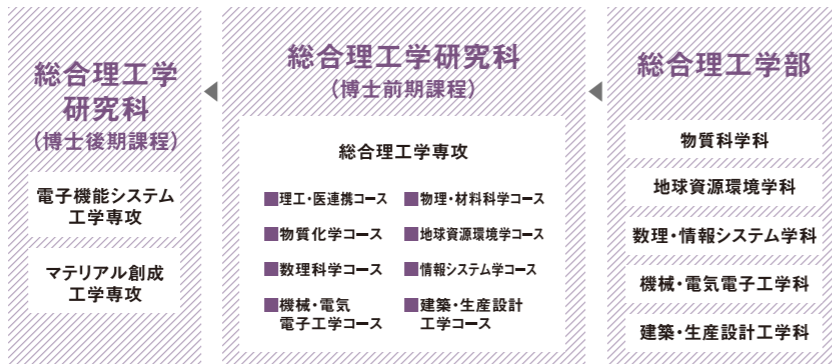
Faculty of Life and Environmental Science
Graduate School of Life and Environmental Science

“いのち”あふれる地球を育む

本学部では、生物・生命を、人間社会と広範で多様な関係を有する存在という広い意味
での資源と捉えます。そして生命現象の基本原理解から、生物資源の育成、利用、開発保
全とそれを育む環境に関する広い分野を教育研究の対象としています。



■ 総合理工学部ホームページ
<http://shimane-riko.jp/>



■ 生物資源科学部ホームページ
<http://www.life.shimane-u.ac.jp/>



物質科学科

物理分野

物理分野では、素粒子論から新素材開発まで、物質に関する幅広い教育・研究を行っています。物理学、材料科学に関する専門知識、技術、研究能力を持ち、物質科学の発展に寄与できる技術者、研究者の育成を目指します。教育プログラム「物理系コース」は、JABEEの認定を受けています。

化学分野

化学分野は、化学の基礎から応用まで深く学びたい人、新機能を持つ物質を研究したい人、応用技術を修得したい人のための教育を提供します。JABEE対応の教育プログラムに基づいた技術者養成を目指す「機能材料化学コース」、幅広い知識を基に多分野で活躍できる人材育成を目指す「基礎化学コース」があります。

地球資源環境学科

地球資源環境学科は、地球物質システム学、環境地質学、自然災害工学の3教育分野からなり、地質学をベースとして、地球のなりたちや天然資源、自然災害工学等について総合的に教育・研究しています。本学科では、JABEE認定の技術者教育プログラムを実施し、また野外実習や実験を重視したカリキュラムを組んでいます。

数理・情報システム学科

数理分野

数理分野は、数理構造と数理解析の2コースから構成されます。1年次には数学と情報の基礎を、2年次以降に数理系の専門科目を学びます。数学の学習を通じて、論理的な思考力や柔軟な発想力、適切な判断力、そして豊かな表現力を持ち合わせた、教育を含む諸分野で指導的役割を果たせる人材を育成しています。

情報分野

情報分野では情報システムコースと情報工学コースの2コースから構成されています。1年次に数学と情報の基礎を学び、2年次以降は主に情報工学に関連する専門科目を学びます。ソフトウェアやハードウェアの研究開発を通じて、国際的に通用する技術や幅広い見識を持ち合わせた人材の育成を行っています。

機械・電気電子工学科

機械・電気電子工学科は、機械工学、電気工学及び電子工学の3分野を融合した学科です。これらの分野の核心的基礎を幅広く学習した上で、さらに一分野について、より応用的・専門的な科目を深く学ぶことによって、激動の21世紀で活躍できる高い専門性を持った技術者の育成を目指しています。

建築・生産設計工学科

建築・生産設計工学科は、健康で快適な生活と、資源循環型社会の実現のために材料設計、プロセス設計(生産プロセス設計・循環プロセス設計)、製品設計(建築設計・機械設計)の全般に対応できる、広い知識と独創性を兼ね備えた人材の育成を目指して、JABEE認定を受けたコースを含め教育を行っています。

理工特別コース

「理工特別コース」は既存の5学科7分野を横断する総合理工学部の学部共通教育コースです。それぞれの学科・分野の教育活動と共同しながら、学科の枠を超えて学部の全教員の協力を得て学生の教育に当たります。AO入試(平成24年度募集より実施)の合格者及び各学科への入学者から選抜された優秀な学生に対し、1~2年次の連続したアクティブ・ラーニングセミナーと3年次の早期研究室配属を通して、入学時から継続的に理工系分野の研究面への興味・意欲、国際的視野を育む教育を行うことが、このコースの特徴です。

生物科学科

本学科の教育研究対象は、DNAやタンパク質などの分子レベルから、細胞レベル、組織・器官レベル、個体レベル、種レベルにいたる構造(形態)と機能(生理)、時間軸が重要な発生、遺伝、進化など非常に広い範囲に渡っています。これら多様な生物現象の不思議に触れ、解き明かす過程を経験してもらうことにより、論理的思考力、問題解決能力を身につけた社会人として活躍できる人材の育成を目的としています。

生命工学科

ライフサイエンスとバイオテクノロジーに関する幅広い知識と高度な専門技術を学びます。生物学と化学の知識を基盤に、遺伝子操作、生命情報解析、バイオイメージング、有機合成、分子構造解析等の最先端技術・機器を駆使して、微生物・動植物が持つさまざまな生命現象の基本的なメカニズムの解明とともに、生物の持つ有用機能を食品・化学、医薬等の生物産業と化学産業に役立てるための教育と研究を行っています。

農林生産学科

農林生産による豊かな人間生活の実現を目指し、様々な問題を抱える農産物及び林産物に関する持続可能な生産技術、経営・経済、並びに生産環境を取り巻く生態系について教育と研究を行う学科です。豊かな自然環境に恵まれた山陰地域という立地条件を活かしたフィールド学習など幅広いカリキュラムを通して、農林業とそれを取り巻く生態系、地域社会について総合的に学ぶことができます。本学科は、農産物の生産とその品質・安全性など国内外の農業生産現場が抱えている問題を解決するための教育と研究を行う農林生産学、森林の生態と育成・保全、土壌・水環境、林業機械利用、バイオマスエネルギー利用、リモートセンシング管理、森林政策・経済について教育と研究を行う森林学、植物・昆虫・微生物などが織りなす生命現象とその多面的な価値に注目し、持続可能な農林業生態系や環境保全・管理・活用に関する教育と研究を行う農林生態学、農業・農村を主な対象とし、中山間地域の活性化や資源・環境問題、農業経営・市場問題などの社会経済問題を解決していくための手法について教育と研究を行う農村経済学の4つの教育コースからなり、相互に連携しながら専門性を高める教育と研究を行います。

地域環境科学科

環境に調和した循環型社会の確立をめざし、土・水・生物等の地域の資源及び環境を適切に調査・評価し、総合的に保全・管理するための知識と技術を習得する学科です。宍道湖・中海や中国山地などの豊かな自然と食糧生産の基盤である農山村地域をフィールドとして、実践的な教育を行います。本学科は、人と自然との共存や生態系の保全を目指し、生物が生息する水・土環境で生じる様々な現象とそのメカニズムを理解するための知識と方法を学習する生態環境科学、資源循環型社会の構築を目指し、地域資源の有効かつ持続的利用のための生態系の保全・修復技術を学習する環境資源工学、地域の豊かな生産環境・生活環境・自然環境を創造・管理・保全するための専門的な基礎学力と技術を、工学的な観点から習得する地域工学教育コース[JABEE(日本技術者教育認定機構)コース]の3つの教育コースを提供します。

附属生物資源教育研究センター

森林科学、農業生産科学、海洋生物学の3部門からなり、島根県の豊かな自然と多様な生物のもたらす恵みを楽しむ利用するため、県中部及び西部に設けられた演習林、県東部、中部にある実験農場、隠岐の島にある臨海実験施設を活用して、自然への親しみ、実地体験、新たな発見に貢献できる教育研究を行っています。

大学院 総合理工学研究科

《博士前期課程》■総合理工学専攻
○理工・医連携コース ○物理・材料科学コース ○物質化学コース ○地球資源環境学コース
○数理科学コース ○情報システム学コース ○機械・電気電子工学コース ○建築・生産設計工学コース
《博士後期課程》■マテリアル創成工学専攻 ■電子機能システム工学専攻

総合理工学研究科博士前期課程は、平成24年4月、現代社会の新たな要請に応えるため、これまでの5専攻体制を改組し、1専攻8コース体制に生まれ変わりました。各コースでは、科学技術の総合化を目指す新たな理工融合理念に則した研究開発やそれに携わる高度技術者の育成を実践しています。また、理工学と医学が融合した分野の教育研究を推進するため、「理工・医連携コース」を設置しました。博士後期課程では、さらに高度な研究開発能力を身につけ、科学技術の創造に貢献できる人材を養成します。また、本研究科には外国人留学生とともに修学する「英語による「地球」教育研究特別プログラム」が設置されています。

■ 総合理工学研究科HP <http://shimane-riko.jp/graduate/index.html>

大学院 生物資源科学研究科 ●生物生命科学専攻 ●農林生産科学専攻 ●環境資源科学専攻

本研究科では、各専攻それぞれに「課題研究コース」、「学術研究コース」、「地域産業人育成コース」を設け、各人の志向に応じたカリキュラムの選択を可能にしています。課題研究コースでは多様な高度専門職業人を養成するための、学術研究コースでは連合大学院博士課程への進学等研究者を目指す人材を養成するための、また、地域産業人育成コースでは地域産業において指導的役割を果たす人材を養成するための教育プログラムを提供します。また、セメスター制の採用により秋入学を可能にし、社会人や留学生の利便性の向上を図っています。講義では研究科共通科目の必修科目として「科学方法論」や「生物資源科学論」を設け、総合科学的な視点を深めるとともに、専攻、コースに応じた研究や演習により、高い独創性と実践力、国際的な対応力を養っています。

■ 生物資源科学研究科HP <http://www.life.shimane-u.ac.jp/daigakuin/index.html>



島根大学大学院法務研究科(山陰法科大学院)は、地域社会の法化の進展に寄与すると共に、国際化時代にも対応できる、高度な法的思考力と知識を有する専門ジェネラリストとしての法曹の養成を基本理念にしています。

そのために教育面では、高度で多様な専門知識の修得のみならず、法曹として生涯役立つ法的知性の基礎作り、地域社会の紛争に敢然と立ち向かい解決への道筋を立てる意欲と熱意を育む教育を重視しています。

新司法試験に合格した修了生の多くは社会人と純粋未修者で、社会人と法学未修者向け教育に関して成果を上げており、本研究科の教育実践は2008年度の認証評価で高い評価を受けています。

●養成すべき法曹像(法科大学院の基本理念と教育目的)

- ①「国民の社会生活上の医師」として地域課題を熟知し、地域社会に深く根ざした法曹
- ②東アジアを中心とした各国法事情・国際取引等に精通し、国際社会の発展に貢献できる法曹



●カリキュラムの基本的な考え方

- ①基本的法律知識の体系的・理論的理解とともに、職業法曹としての倫理観を醸成する。
- ②入門科目の設置により、基本的な法概念、制度、法理論等を体系的に理解し、基礎的な法的思考力を身に付けることができ、講義形式を中心とした法律基本科目から演習形式の総合科目への移行をより効率的に行う。
- ③理論を踏まえつつ、実務への架橋を意識した教育を行うことにより、実務的課題への実践的取り組み方法を修得させる。
- ④先端応用領域における法的問題解決能力を身に付け、多様かつ地域独自の現代的課題に対応できる能力を磨く。

●社会人・法学未修者への配慮と法学既修者コース

新司法試験に合格した本研究科の修了生の多くが社会人と法学未修者で、すでに地元山陰で弁護士として活躍している修了生もいます。本研究科では、社会人・未修者のかたができるだけ早く授業に取り組めるように、入学前に「法学入門講座」を開催し、授業開始に先立ち導入教育期間を設け、法のシステムや裁判制度の基本的な仕組み、法の役割・機能、法的思考方法の特徴やそれに必要とされる能力などについて学習しています。さらに、主要な法分野について「入門科目」を開講しています。他方、法学につき十分な知識を有していると認められる既修者のかたのため、2年(短縮)コースを設けました(平成25年度入試から募集します)。

●充実した学習環境と経済的支援

学生全員にキャレルが付与され、24時間使用できる学生研究室、図書、コピー機、法廷教室などが備わっており、充実した学習環境で法曹を目指し、学習に集中することができます。

また、鳥取・島根両県の若手弁護士がアカデミック・アドバイザーとして、本研究科の教員と連携協力して、学習相談や、教育支援を行っています。

本研究科独自の経済的支援制度として、「成績優秀者の入学料及び授業料の特別免除制度」(各学年5名を対象)を設けるなど、経済的支援も充実しています。



●地域法律相談センター

本研究科には、「地域法律相談センター」が設置されています。島根、鳥取両県の住民の皆様からの法律相談(無料)に実務家教員(弁護士)がお応えするにあたり、相談者の同意を得て学生も参加します。学生にとっては、地域において現実起こっている法律問題を実感することができるのと同時に、相談者とのコミュニケーションの方法を実体験する貴重な機会となっています。



キャンパスマップ

松江キャンパス

〒690-8504 松江市西川津町1060 TEL.0852-32-6100

- | | |
|-------------------|--|
| 1 本部棟 | 34 男女共同参画推進室 |
| 2 法文学部棟 | 35 総合科学研究支援センター
遺伝子機能解析分野
RI実験施設 |
| 3 山陰研究センター | 36 総合理工学部1号館(大学院棟) |
| 4 教育学部棟 | 37 学生センター |
| 5 教育学部附属教育支援センター | 38 教育開発センター |
| 6 教育学部附属教師教育センター | 39 入試センター |
| 7 教育学部附属FD戦略センター | 40 学生支援センター |
| 8 光物性実験室 | 41 キャリアセンター |
| 9 総合理工学部1号館 | 42 外国語教育センター |
| 10 総合理工学部2号館 | 43 国際交流センター |
| 11 総合理工学部3号館 | 44 工作センター |
| 12 動物飼育室 | 45 学生会館 |
| 13 生物資源科学部1号館 | 46 第1食堂 |
| 14 生物資源科学部2号館 | 47 第2食堂 |
| 15 生物資源科学部3号館 | 48 第1体育館 |
| 16 水利実験室 | 49 第2体育館 |
| 17 農業機械実験室 | 50 トレーニングセンター |
| 18 林産加工場・実験動物飼育施設 | 51 武道館 |
| 19 製材加工室 | 52 体育器具庫 |
| 20 器具庫 | 53 課外活動共用施設 |
| 21 温室 | 54 プール棟 |
| 22 動物実験飼育室 | 55 弓道場 |
| 23 ガラス棟 | 56 アーチェリー場 |
| 24 圃場 | 57 車庫 |
| 25 教養講義室棟1号館 | 58 環境安全施設 |
| 26 教養講義室棟2号館 | 59 焼却処理施設 |
| 27 附属図書館 | 60 特高受変電棟 |
| 28 保健管理センター | 61 ボイラー室 |
| 29 生涯学習教育研究センター | 62 守衛室 |
| 30 総合情報処理センター | 63 中央監視室 |
| 31 汽水域研究センター | 64 薬品庫 |
| 32 ミュージアム | 65 大学ホール |
| 33 古代出雲研究施設 | |



附属図書館

学内外の学術情報資源を最大限に利用するための機能を備えた大学の情報・資料センターとして、学習・教育・研究活動を支援しています。



本館(松江キャンパス)

本館は平成25年3月まで耐震・改修工事中で、4月にリニューアルオープンします。改修後の図書館は、入口付近に明るい雰囲気の中で自由学習ができるラーニング・コモンズや、新聞・雑誌を読みながらくつろげるコーナーを設けました。閲覧室には個人机を多数設置し、学習のための静かで落ち着いた環境を提供します。また、図書や雑誌などの資料は、利用者に分かりやすく、使いやすい配置にしています。

資料は、図書約76万冊、雑誌約1万2千誌を所蔵しています。学生用図書の整備に力を注ぐ一方、約9千8百タイトルの電子ジャーナルや各種データベース、Webコンテンツ等の電子媒体の学術情報も提供しています。41台のPCが自由に利用できるパソコンルーム、情報コンセントを備えたコーナー、無線LANなど様々な利用形態に応じた環境を提供するとともに、これらの情報資源を使いこなすための支援をしています。

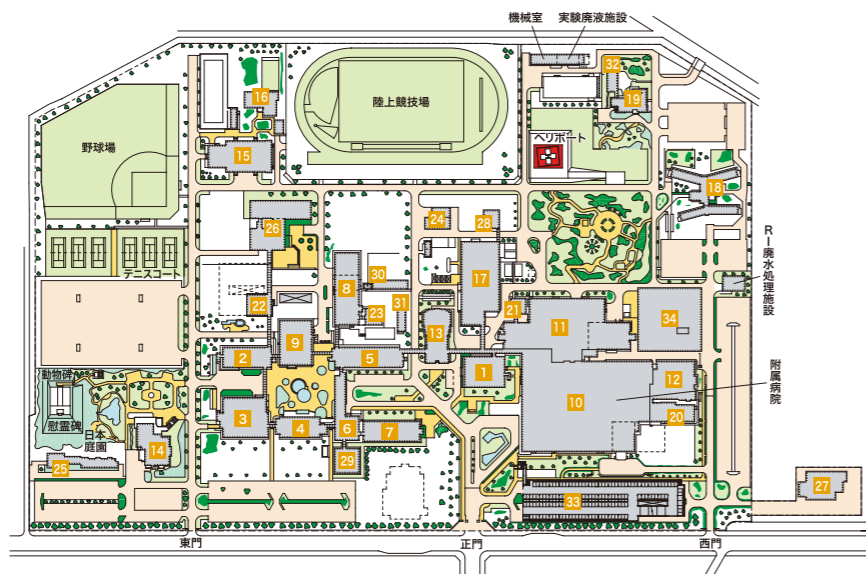
学生による図書館利用や学習サポートも行っており、学生目線を活かして活発に活動しています。全国の大学図書館や県内の公共図書館等と連携し、資料の相互利用も可能です。



キャンパスマップ

出雲キャンパス

〒693-8501 出雲市塩冶町89-1 TEL.0853-23-2111



- | | | |
|-----------------------------|---------------------------|-----------------------------|
| 1 本部棟 (医学部) | 13 臨床講義棟 | 23 RI研究棟 |
| 2 講義棟 | 14 学生会館 | 24 塵芥焼却炉室 |
| 3 実習棟 | 14 保健管理センター
(出雲保健センター) | 25 国際交流会館 |
| 4 基礎研究棟 | 14 食堂 | 26 看護学科棟 |
| 5 臨床研究棟 | 15 体育館 | 27 産学連携センター
(地域医学共同研究部門) |
| 6 共同研究棟 | 16 武道館 | 28 特高受変電棟 |
| 7 第二研究棟 | 17 中央機械室 | 29 第二共同研究棟 |
| 8 総合科学研究支援センター
RI・動物実験施設 | 18 看護師宿舎 | 30 第三共同研究棟 |
| 9 医学図書館 | 19 医学部会館 | 31 第四共同研究棟 |
| 10 外来・中央診療棟 | 20 MRI-CT装置棟 | 32 うさぎ保育所 |
| 11 病棟 | 21 病歴室 | 33 立体駐車場 |
| 12 RI高エネルギー棟 | 22 第三研究棟 | 34 新病棟 |



附属図書館

学内外の学術情報資源を最大限に利用するための機能を備えた大学の情報・資料センターとして、学習・教育・研究活動を支援しています。

医学図書館 (出雲キャンパス)

医学図書館は出雲キャンパスにあり、医学系専門図書館として、医学部の学生・教職員及び附属病院の医師、看護師、医療職員へ、学習・教育・研究支援のサービスを展開しています。ICカードによる開館時間外入館システムにより、出雲キャンパス所属者は24時間利用が可能で、夜遅くまで勉強する学生や、診療時間後に研究する教職員を日夜支援しています。資料は図書約12万冊、学術雑誌3千誌のほか、ビデオ、DVDも所蔵しており、松江キャンパスと同様の電子ジャーナル、各種文献データベース、Webコンテンツ等も提供しています。

医学図書館では、学術情報収集のスキル向上を目指して、学生・教職員向けに、授業に参加しての講習会、文献データベース検索講習会等を数多く開催しています。また、島根大学の地域への貢献として、医学専門資料を所蔵する図書館を一般市民の方にも広く公開しています。さらに、島根県内の医療関係機関等図書館(室)と連携しながら、関係職員の資質向上と地域医療従事者へのサービス向上にも努めています。



学内共同教育研究施設等

学内には、各学部や研究科等に所属する研究者が共同して教育・研究にあたる施設として、一連の教育研究施設を設置しています。

生涯学習教育研究センター

<http://www.ercll.shimane-u.ac.jp/>



地域の生涯学習の推進と市民の学習機会の拡充のため地域の生涯学習関連機関・団体と連携を図りながら、地域社会の発展に寄与しています。

汽水域研究センター

<http://www.kisuiiki.shimane-u.ac.jp/>



「人間社会とそれを取り巻く自然環境の持続的発展を可能にするための汽水域の保全と利用」を基本理念として、環境変動や生物多様性のメカニズムの解明、資源解析や保全再生に取り組んでいます。

ミュージアム(本館など)

<http://museum.shimane-u.ac.jp/>



永年の教育・研究によって収集・蓄積されてきた標本・資料類等を整理、保管、調査・研究し、展示公開や情報発信を行っています。なお、松江キャンパス内には、このほか山陰地域資料展示室、古代出雲文化資料調査室等の展示スペースもあります。

国際交流センター

<http://kokusai.shimane-u.ac.jp/>



多様な国際交流活動の拠点となり、市民、行政、産業界等の地域社会と協力し、海外の大学等関係機関と学生・教職員交流や教育研究の連携を戦略的に推進します。

産学連携センター

<http://www.crc.shimane-u.ac.jp/>



松江地区

産学官連携の拠点として大学の総合的窓口機能を担い、民間等との共同研究、受託研究及び科学技術相談への対応、知的財産に関する相談及び企業・民間の技術者・医療技術者への教育等の業務を行っています。

- 地域産業共同研究部門
- 地域医学共同研究部門
- 連携企画推進部門
- 知的財産創造部門

出雲地区

学内共同施設 工作センター

工作機械を効果的に管理し、教育・研究に必要な機器装置等の製作、修理を行っています。学生も実習等で利用できます。

総合情報処理センター

<http://www.ipc.shimane-u.ac.jp/>



総合情報処理センターは、センターに置かれた情報処理システムを整備・運用し、学内外の情報ネットワークとの連携を図ることで、学内の教育・研究などの情報処理のための利用をサポートするとともに、学術情報システム等の開発や人材育成の支援を行っています。

外国語教育センター

<http://cfle.shimane-u.ac.jp/>



外国語教育の計画立案・運営・実施及びその点検評価を組織的に行うほか、外国語教育を通して、地域・社会貢献及び国際貢献に寄与することを目指しています。

サテライト(島根大学旧奥谷宿舎)

<http://museum.shimane-u.ac.jp/okudani.html>



1924(大正13)年、島根大学の前身・旧制松江高等学校外国人教師のために建てられた洋館で、国登録有形文化財にも登録されています。様々な展示活動やミニ教室、町歩き観光の拠点として活用されています。

島根大学・寧夏大学国際共同研究所

【寧夏大学構内(中国寧夏回族自治区銀川市)】

<http://www.ningxia.shimane-u.ac.jp/>



研究所を拠点に、中山間地域の活性化、開発と環境問題、都市と農村の格差問題等を主要なテーマとして共同研究を行い、研究成果をアジアをはじめとする世界に向けて発信することを目指しています。

広島オフィス

http://www.shimane-u.ac.jp/facility/facilities/hiroshima_office/



島根大学の情報発信・交流の拠点として利便性の高い広島市街に開設。入学・入試に関する情報提供・相談、進路・就職に関する情報提供・相談、研究・事業の情報提供など、利用者のニーズに対応した相談体制を準備しています。

総合科学研究支援センター

<http://www.shimane-u.ac.jp/>から「病院・図書館・附属施設」をクリック

既存の研究分野の枠を超えた共同利用体制の整備を実現し、生命・環境・ニューマテリアルに関する先端的及び学際的な教育・研究を強力に支援するとともに、その成果を社会の発展のために還元しています。

- 遺伝子機能解析分野(RI実験施設)(松江)
- 物質機能分析分野(松江)
- 実験動物分野(出雲)
- 生体情報・RI実験分野(出雲)

学生生活関係施設

大学会館

http://www.shimane-u.ac.jp/education/extra_curricular/extra_curri_facility/(松江キャンパス)



学生・教職員が相互交流できる場として、また学生の課外活動の場としても使用することができます。施設内では、書籍・文具及び日用品の販売、高速バス・JR乗車券の予約発券等のサービスも行っていきます。

学生センター(松江キャンパス)

<http://nyucen.shimane-u.ac.jp/>(入試センター)



学内中央部に位置し、学生の修学上の支援・助言等を行っています。また、同センターには、入試センターも設置されています。

■入試センター

島根大学における入学選抜方法等の改善を図るため、入学試験の企画、広報、実施、評価、改善等を行っています。

食堂

<http://www.shimane-u.ac.jp/education/welfare/cafeteria/>(松江キャンパス)



松江キャンパスの第1食堂と出雲キャンパスの食堂は、朝食から夕食まで3食対応で自分でおかずを組み合わせる利用ができます。松江キャンパスの第2食堂は、丼類やセルフバーなどを揃えた昼食対応の食堂です。

学生支援センター

<http://career.shimane-u.ac.jp/>(キャリアセンター)



学生支援センター内の学生支援課では、課外活動、就職関係、授業料免除・奨学金等学生生活上の各種支援を行っています。また、同センターには、キャリアセンターも設置されています。

■キャリアセンター

学生の職業・進路選択及び就職活動をより円滑に推進するため、就職情報の提供、就職相談、キャリア教育の企画・実施等を行っています。

教育開発センター

<http://cerd.shimane-u.ac.jp/>

島根大学における学生の学びの質を保証・向上するために、教育システムの構築やFD、それらを支える各種調査、特色ある授業の創出や全学教育プログラムの企画・実施まで様々な学習環境改善活動に携わっています。

学生寮

<http://www.shimane-u.ac.jp/education/welfare/residence/>



学生寮は、平成24年度からワンルーム形式のA棟(定員168名)が新築され入居可能となりました。また、平成25年度には現在の男子寮・女子寮を改修したB棟(定員91名)、C棟(定員59名)が完成予定です。住所/松江市西川津町字深町3371-1

保健管理センター

松江：<http://www.ipc.shimane-u.ac.jp/~health/>

出雲：<http://www.med.shimane-u.ac.jp/health/index.html>

心身ともに健康な生活が送れるよう、専門的立場から支援するサービス部門です。定期健康診断の実施、病気やケガの応急処置、健康相談や医療機関の紹介を行っています。いろいろな悩み事の相談には臨床心理士などの専門家が対応しています。

男女共同参画推進室

<http://gender.shimane-u.ac.jp>

誰もが学びやすく・働きやすい学内環境を作ることを目指して、男女共同参画や研究者支援にかかる様々な事業を行っています。

その他の地区

深町地区(学寮)

〒690-0823 松江市西川津町字深町3371-1 TEL.0852-21-3118

北陵地区(産学連携センター・松江キャンパス)

●地域産業共同研究部門・知的財産創活部門・連携企画推進部門
〒690-0816 松江市北陵町2 TEL.0852-60-2290

大輪地区(附属学校)

教育学部附属小学校/〒690-0882 松江市大輪町416-4 TEL.0852-29-1200

教育学部附属中学校/〒690-0824 松江市菅田町167-1 TEL.0852-29-1300

教育学部附属幼稚園/〒690-0882 松江市大輪町416-4 TEL.0852-29-1120

部局名	所在地	電話番号
生物資源科学部附属生物資源教育研究センター		
本部	〒690-1102 松江市上本庄町2059	0852-34-0311
森林科学部門 三瓶演習林	〒694-0003 大田市三瓶町多根941-1	0854-86-0011
農業生産科学部門 本庄総合農場	〒690-1102 松江市上本庄町2059	0852-34-0311
// 神西砂丘農場	〒699-0822 出雲市神西沖町字蛇島2473-1	0853-43-2081
海洋生物科学部門 隠岐臨海実験所	〒685-0024 隠岐郡隠岐の島町加茂194	08512-2-1814
汽水域研究センター 中海分室	〒690-1401 松江市八束町江島字南土手附694	0852-76-9007
国際交流会館	〒690-0824 松江市菅田町字ドンド320	0852-25-9530

沿革

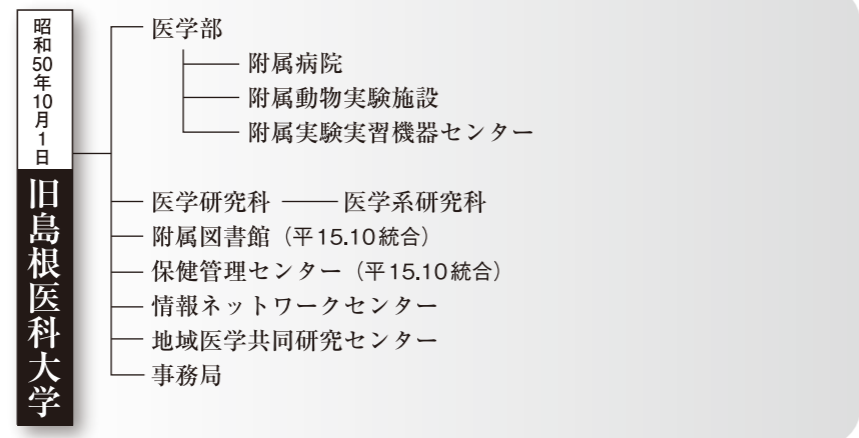
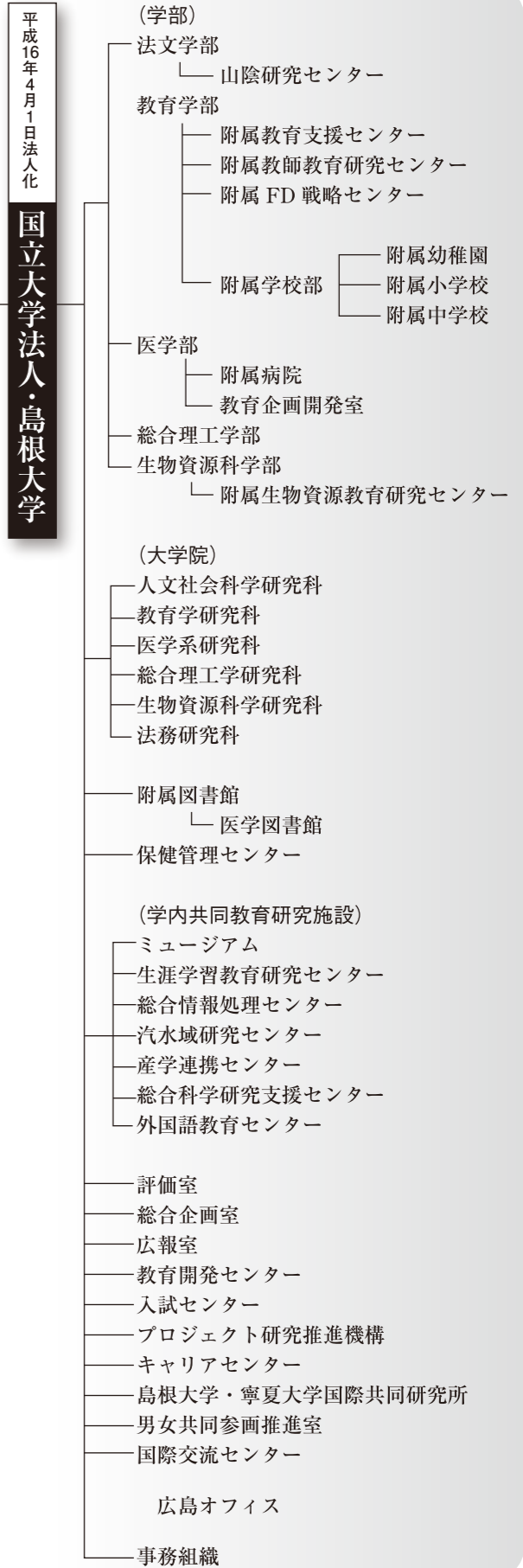
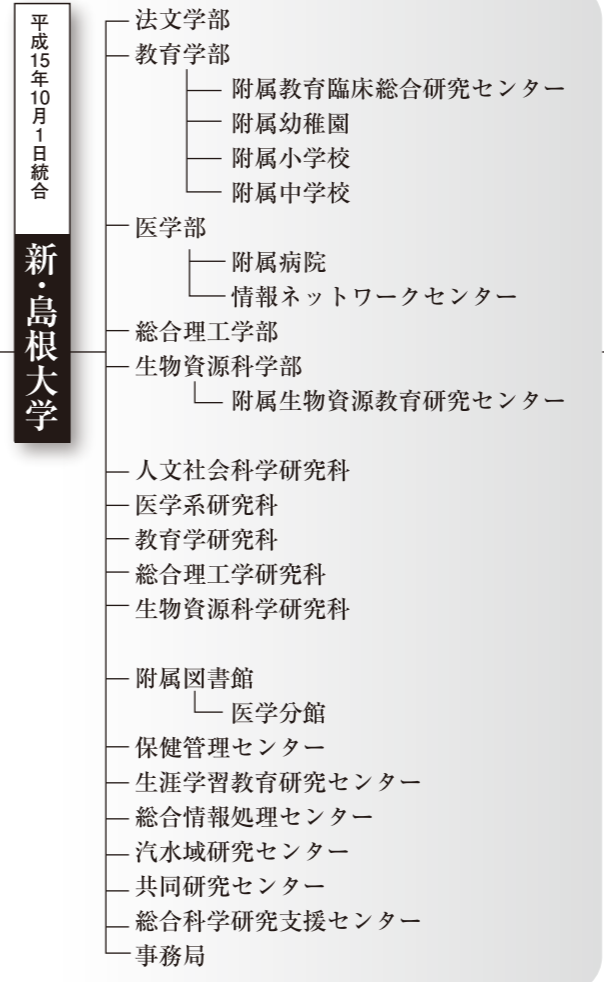
年月	旧島根大学	旧島根医科大学
昭和24年 5月	旧制松江高等学校・島根師範学校・島根青年師範学校を母体として、文学部 教育学部からなる新制大学として発足	
昭和40年 4月	島根県立島根農科大学を国立移管し、農学部を設置	
昭和41年 4月	保健管理センター設置	
昭和42年 6月	農学部附属農場・農学部附属演習林設置	
昭和46年 4月	大学院農学研究科設置(平成12年生物資源科学研究科に拡充改組)	
昭和50年 10月		島根医科大学設置
昭和53年 4月		RI 実験施設設置
昭和53年 6月	文学部を改組し、法文学部と理学部設置	
昭和54年 4月	教育学部附属複式教育研究センター設置	医学部附属病院設置
昭和56年 4月		医学部附属動物実験施設設置
昭和57年 4月		大学院医学研究科博士課程設置
昭和58年 4月		医学部附属実験実習機器センター設置
昭和60年 4月	大学院理学研究科設置(平成12年総合理工学研究科に拡充改組)	
昭和63年 4月	大学院法学研究科設置(平成9年人文社会科学研究科に拡充改組)	
平成元年 4月	島根大学、鳥取大学、山口大学の協力のもとに 大学院連合農学研究科博士課程を鳥取大学に設置	
平成2年 6月	遺伝子実験施設設置 教育学部附属教育実践研究指導センター設置	
平成3年 4月	大学院教育学研究科設置	保健管理センター設置
平成4年 4月	汽水域研究センター設置	
平成5年 4月	生涯学習教育研究センター設置	
平成6年 12月		情報ネットワークセンター設置
平成7年 2月		特定機能病院として承認
平成7年 10月	理学部と農学部を融合・改組し、総合理工学部と生物資源科学部設置	
平成8年 5月	地域共同研究センター設置	
平成9年 4月	大学院人文社会科学研究科設置 附属生物資源教育研究センター設置	
平成11年 4月		医学部看護学科設置
平成12年 4月	大学院総合理工学研究科設置 大学院生物資源科学研究科設置	
平成13年 4月	教育学部附属教育臨床総合研究センター設置 機器分析センター設置	地域医学共同研究センター設置
平成14年 4月	大学院総合理工学研究科を博士課程に改組 総合情報処理センター設置	
平成15年 4月		大学院医学研究科を大学院医学系研究科に改称し、看護学専攻(修士課程)設置

年月	島根大学
平成15年 10月	旧島根大学と旧島根医科大学を統合し、新島根大学を設置 共同研究センター・総合科学研究支援センター設置
平成16年 3月	島根大学・寧夏大学国際共同研究所設置
平成16年 4月	国立大学法人法の施行により、国立大学法人島根大学となる 大学院法務研究科設置、大学院医学系研究科に医科学専攻(修士課程)を設置 教育学部附属教育支援センター設置、医学部教育企画開発室設置 外国語教育センター設置、法文学部山陰研究センター設置 共同研究センターを改組し、産学連携センターを設置、評価室設置、総合企画室設置
平成16年 10月	教育開発センター設置、入試センター設置
平成16年 12月	プロジェクト研究推進機構設置
平成17年 3月	キャリアセンター設置
平成17年 10月	ミュージアム設置、国際交流センター設置
平成18年 4月	教育学部附属教師教育研究センター設置
平成19年 4月	教育学部附属FD戦略センター設置
平成19年 6月	男女共同参画推進室設置
平成20年 7月	広報室設置
平成23年 4月	広報室設置
平成23年 10月	広島オフィス設置

学年暦

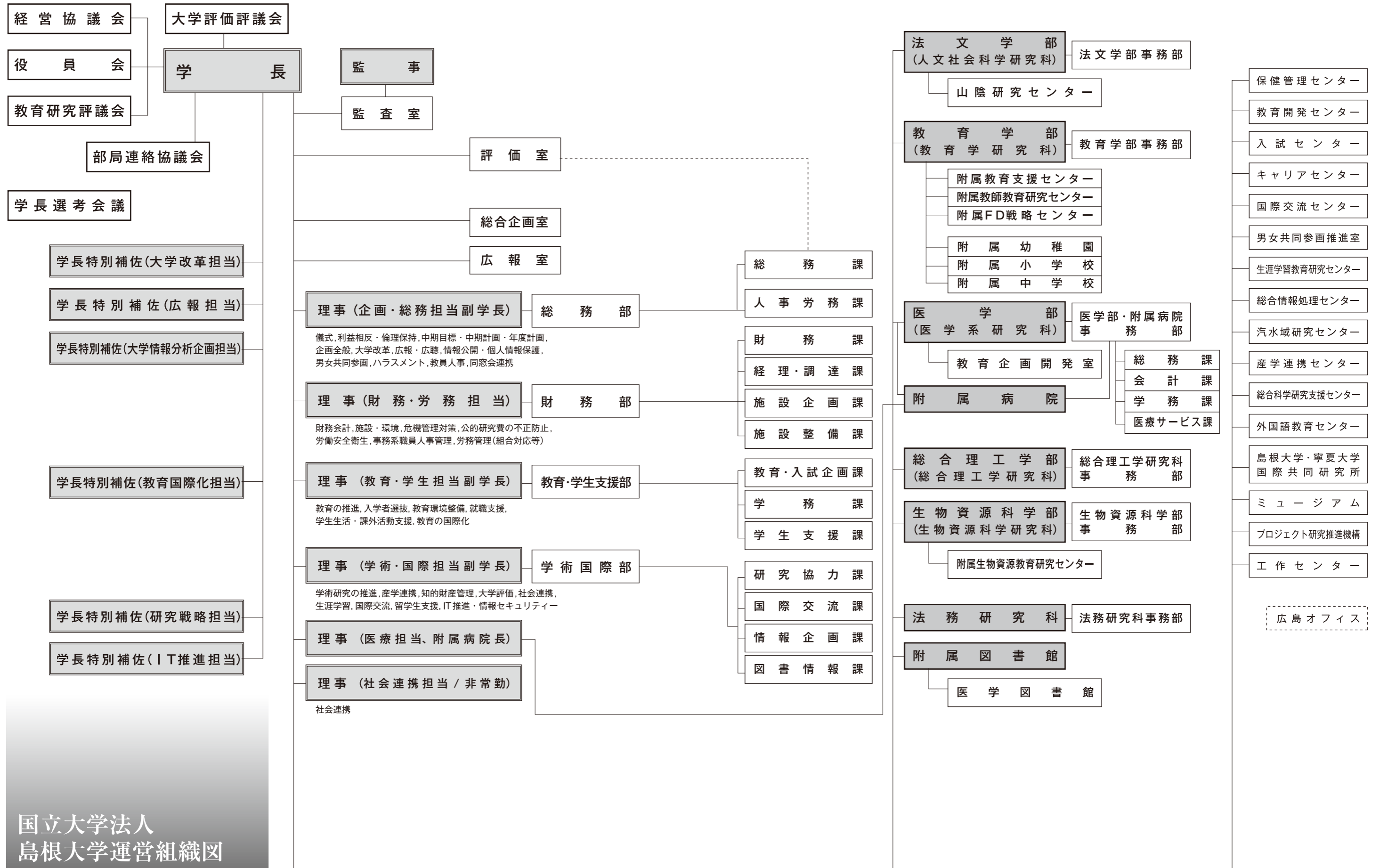
4月1日	学年始	9月30日	前期終	10月13日~14日	大学祭(出雲)
	前期始	10月1日	後期始	12月22日~1月6日	冬季休業
4月6日	入学式		開学記念日	3月21日	学位授与式(出雲)
8月8日~9月30日	夏季休業	10月5日~8日	大学祭(松江)	3月22日	学位授与式(松江)

沿革図



運営組織図

2012.4.1現在



国立大学法人
島根大学運営組織図

役職員・経営協議会委員・教育研究評議会評議員

2012.5.1現在

学長

学長 小林 祥 泰

理事

理事(企画・総務担当副学長) 塩 飽 邦 憲
 理事(教育・学生担当副学長) 肥 後 功 一
 理事(学術・国際担当副学長) 竹 内 潤 夫
 理事(医療担当) 井 川 幹 夫
 理事(財務・労務担当) 両 角 晶 仁
 理事(非常勤)(社会連携担当) 江 口 博 晴

学長特別補佐

学長特別補佐(大学改革担当) 野 中 資 博
 学長特別補佐(大学改革担当) 野 田 哲 夫
 学長特別補佐(広報担当) 田 坂 郁 夫
 学長特別補佐(大学情報分析企画担当) 木 野 明
 学長特別補佐(教育国際化担当) リチャード グラディング
 学長特別補佐(研究戦略担当) 藤 田 恭 久
 学長特別補佐(研究戦略担当) 浦 野 健 二
 学長特別補佐(IT推進担当) 平 野 章 二

監事

監事 山 崎 征 爾
 監事(非常勤) 宮 脇 和 秀

理事の下に置く部

理事(企画・総務担当)
 総務部
 総務部長 宮 地 弘
 総務課長 小 村 陽 悦
 人事労務課長 岩 澤 芳 和
 理事(財務・労務担当)
 財務部
 財務部長 村 野 弘 明
 財務課長 田 井 中 淳 一
 経理・調達課長 田 上 洋
 施設企画課長 安 田 毅
 施設整備課長 本 池 俊 明
 理事(教育・学生担当)
 教育・学生支援部
 教育・学生支援部長 為 石 勝 美
 教育・入試企画課長 久 保 公 四 郎
 学務課長 門 城 祐 司
 学生支援課長 竹 内 美 佐 子
 理事(学術・国際担当)
 学術国際部
 学術国際部長 村 上 賀 章
 研究協力課長 西 田 俊 一
 国際交流課長 野 津 和 男
 情報企画課長 早 竹 昭 人
 図書情報課長 高 木 貞 治

監査室

室長 原 裕 司

学部・大学院

法文学部・人文社会科学研究科
 学部長・研究科長 武 田 信 明
 副学部長 出 口 野 卓
 副学部長 吹 野 光 雄
 副学部長 伊 藤 久 之
 事務長 恒 松 久 之
 教育学部・教育学研究科
 学部長・研究科長 秋 重 幸 邦
 副学部長 高 橋 哲 也
 副学部長 小 川 添 也
 副学部長 河 横 原 茂
 附属教育支援センター長 大 谷 修 司
 附属教師教育研究センター長 伊 藤 豊 彦
 附属FD戦略センター長 小 川 巖 治
 附属学校部長 舟 木 賢 治
 附属幼稚園長 佐 々 有 生
 附属小学校長 佐 々 有 生
 附属中学校長 佐 藤 一 良
 事務長 伊 藤 一 良
 医学部・医学系研究科
 学部長・研究科長 大 谷 浩 之
 副学部長 川 内 秀 之
 副学部長 藤 田 委 由
 附属病院長 井 川 幹 夫
 副病院長 木 下 芳 一
 副病院長 山 口 修 平
 副病院長 秦 美 恵 子
 事務部長 安 藤 慎 吾
 総務課長 林 勝 幸
 会計課長 中 島 一 浩
 学務課長 山 根 茂 雄
 医療サービス課長 山 崎 幸 司
 総合理工学部・総合理工学研究科
 研究科長・学部長 服 部 泰 直
 副研究科長・副学部長 三 瓶 良 和
 副研究科長・副学部長 吉 田 和 信
 副研究科長・副学部長 横 田 修 一 郎
 事務長 廣 光 一 郎
 坂 本 節 郎
 生物資源科学部・生物資源科学研究科
 学部長・研究科長 荒 瀬 榮 一
 副学部長 澤 嘉 弘
 副学部長 松 崎 貴 博
 副学部長 野 中 資 博
 附属生物資源教育研究センター長 小 池 浩 一 郎
 事務長 増 田 一 雄
 法務研究科
 研究科長 藤 田 達 朗
 事務長 恒 松 久 之

附属施設・学内共同教育研究施設等

附属図書館
 附属図書館長 田 籠 博 彦
 医学図書館長 廣 田 秋 彦
 保健管理センター
 所長 竹 永 三 智 子
 副所長 江 副 智 子
 総合企画室
 室長 塩 飽 邦 憲
 評価室
 室長 竹 内 潤 夫
 教育開発センター
 センター長 肥 後 功 一 子
 副センター長 森 朋 子
 入試センター
 センター長 肥 後 功 一 均
 副センター長 田 中 均
 キャリアセンター
 センター長 肥 後 功 一 彦
 副センター長 家 島 明 彦
 国際交流センター
 センター長 竹 内 潤 夫
 副センター長 安 藤 安 則
 生涯学習教育研究センター
 センター長 田 坂 郁 夫
 総合情報処理センター
 センター長 野 田 哲 夫
 副センター長 鈴 木 貢 夫
 汽水域研究センター
 センター長 野 村 律 夫
 副センター長 荒 西 太 士
 産学連携センター
 センター長 大 庭 卓 也
 副センター長 並 河 徹 也
 総合科学研究支援センター
 センター長 富 岡 治 明 郎
 副センター長 廣 光 一 郎
 外国語教育センター
 センター長 西 脇 浩 三
 副センター長 廣 瀬 浩 三
 島根大学・寧夏大学国際共同研究所
 所長 伊 藤 勝 久 平
 副所長 関 一 戸 俊 義
 副所長 一 戸 俊 義
 ミュージアム
 館長 林 正 久
 副館長 會 下 和 宏
 工作センター
 センター長 高 橋 正 訓
 プロジェクト研究推進機構
 機構長 竹 内 潤 夫
 男女共同参画推進室
 室長 塩 飽 邦 憲

経営協議会委員

学長 小林 祥 泰
 理事(企画・総務担当副学長) 塩 飽 邦 憲
 理事(教育・学生担当副学長) 肥 後 功 一
 理事(学術・国際担当副学長) 竹 内 潤 夫
 理事(医療担当) 井 川 幹 夫
 理事(財務・労務担当) 両 角 晶 仁
 理事(非常勤)(社会連携担当) 江 口 博 晴
 山陰中央テレビジョン放送(株)代表取締役
 一畑電気鉄道(株)代表取締役
 学校法人奈良学園理事(高等教育担当)
 社団法人全国社会保険協会連合会常務理事
 島根県弁護士会 弁護士
 キャスター・エッセイスト
 松江市長
 (財)日本宇宙フォーラム 理事長
 小 林 祥 泰
 塩 飽 邦 憲
 竹 内 潤 夫
 井 川 幹 夫
 両 角 晶 仁
 江 口 博 晴
 有 澤 寛 一
 大 谷 厚 一
 梶 近 中
 田 藤 俊 一
 福 松 村 寿 夫
 宮 浦 正 敬
 間 宮 馨 敬

教育研究評議会評議員

学長 小林 祥 泰
 理事(企画・総務担当副学長) 塩 飽 邦 憲
 理事(教育・学生担当副学長) 肥 後 功 一
 理事(学術・国際担当副学長) 竹 内 潤 夫
 理事(医療担当) 井 川 幹 夫
 理事(財務・労務担当) 両 角 晶 仁
 法文学部長 武 田 信 明
 教育学部長 秋 重 幸 邦
 医学部長 大 谷 浩 之
 生物資源科学部長 荒 瀬 榮 一
 総合理工学研究科長 服 部 泰 直
 法務研究科長 林 勝 幸
 附属図書館長 田 籠 博 彦
 産学連携センター長 大 庭 卓 也
 教授 法文学部 出口 野 卓
 教授 法文学部 吹 野 光 雄
 教授 教育学部 高 橋 哲 也
 教授 教育学部 小 川 巖 治
 教授 医学部 小 並 河 徹 也
 教授 医学部 田 邊 一 明
 教授 生物資源科学部 板 村 裕 之
 教授 生物資源科学部 野 中 資 博
 教授 総合理工学研究科 横 田 修 一 郎
 教授 総合理工学研究科 廣 光 一 郎

沿革・組織
 学部等
 学生数、入試・就職・進学状況
 公開講座・公開授業
 外部資金、収入・支出決算額
 国際交流・その他

教職員数

2012.5.1現在

区分	役員				教育職員											一般職員						医療職員			合計		
	学長	理事	監事	小計	教授	准教授	講師	助教	校長	副校長・副園長	主幹教諭	指導教諭	教諭	養護教諭	小計	事務職員	技術職員	図書職員	技能職員	労務職員	教務職員	小計	医療技術職員	看護職員		小計	
学長	1			1											0							0			0	1	
理事		6		6											0							0			0	6	
監事			2	2											0							0			0	2	
監査室				0											0	2						2			0	2	
理事の下に置く部	総務部	総務部長			0										0	1						1			0	1	
		総務課			0											0	14		2				16			0	16
		人事労務課			0											0	22						22			0	22
	財務部	財務部長			0											0	1						1			0	1
		財務課			0											0	9						9			0	9
		経理・調達課			0											0	19						19			0	19
		施設企画課			0											0	9	7			2		18			0	18
	教育部	施設整備課			0											0	1	16					17			0	17
		教育・学生支援部部長			0											0	1						1			0	1
		教育・入試企画課			0											0	14						14			0	14
		学務課			0											0	19		1				20			0	20
	学術国際部	学生支援課			0											0	13						13			0	13
		学術国際部長			0											0	1						1			0	1
		研究協力課			0											0	10	2				1	13			0	13
		国際交流課			0											0	5						5			0	5
学術国際部	情報企画課			0											0	5	2				1	8			0	8	
	図書情報課			0											0	4		14				18			0	18	
法文学部			0	32	30	4									66	6						6			0	72	
教育学部			0	42	29	11	4								86	11						11			0	97	
附属中学校			0							1	2	1	22	1	27							0			0	27	
附属小学校			0							1	2	2	20	2	27							0			0	27	
附属幼稚園			0							1	1	4	1	7								0			0	7	
医学部			0	51	29	11	78								169	105	44		5		7	161			0	330	
附属病院			0	2	11	29	83								125	1	3		11			15	122	533	655	795	
総合理工学研究科			0	57	42	5	13								117	9	3				3	15			0	132	
生物資源科学部			0	32	40	2	15								89	10	13					23			0	112	
法務研究科			0	11	4										15	2						2			0	17	
保健管理センター			0	2	1										3							0	1	2	3	6	
総合企画室			0												0							0			0	0	
評価室			0			1									1							0			0	1	
教育開発センター			0		2	1	2								5							0			0	5	
入試センター			0	1		1									2							0			0	2	
キャリアセンター			0	1		1	1								3							0			0	3	
国際交流センター			0	1											1							0			0	1	
男女共同参画推進室			0												0							0			0	0	
広報室			0												0							0			0	0	
生涯学習教育研究センター			0	1	1										2							0			0	2	
総合情報処理センター			0		1										1							0			0	1	
汽水域研究センター			0	2	3										5							0			0	5	
産学連携センター			0	3	1										4							0			0	4	
総合科学研究支援センター			0	2	2		4								8							0			0	8	
外国語教育センター			0	5	6	1									12							0			0	12	
島根大学・寧夏大学国際共同研究所			0												0							0			0	0	
ミュージアム			0		1										1							0			0	1	
工作センター			0												0							0			0	0	
アジェンタ研究推進機構			0			1									1							0			0	1	
合計	1	6	2	9	245	203	68	200	0	3	4	4	46	4	777	294	90	15	18	2	12	431	123	535	658	1,875	

(注)1. 理事及び監事には、非常勤の理事及び監事各1名を含む。2. 病院診療職員は含まない。3. 外国人研究員は含まない。

学部・大学院

学部

学部	学科・課程	講座等
法文学部	法経学科	法経
	社会文化学科	社会文化
	言語文化学科	言語文化
教育学部	学校教育課程	初等教育開発、心理・発達臨床、言語文化教育、共生社会教育、数理基礎教育、自然環境教育、人間生活環境教育、健康・スポーツ教育、芸術表現教育
医学部	医学科	基礎医学系 解剖学、生理学、生化学、生命科学 臨床基礎医学系 薬理学、病理学、微生物・免疫学 社会医学系 法医学、環境保健医学、医療情報学、医療社会文化学 臨床医学系 内科学、皮膚科学、小児科学、外科学、整形外科学、脳神経外科学、泌尿器科学、精神医学、産科婦人科学、耳鼻咽喉科学、眼科学、放射線医学、麻酔科学、緩和ケア、歯科口腔外科学、臨床検査医学、救急医学、地域医療教育学、地域医療支援学、総合医療学
		看護学科
	総合理工学部	物質科学科
地球資源環境学科		地球物質システム学、環境地質学、自然災害工学
数理・情報システム学科		数理構造、数理解析、応用情報学、計算機科学
機械・電気電子工学科		制御システム工学、計測システム工学、電気電子システム工学、電子デバイス工学
建築・生産設計工学科		材料工学、機械加工システム学
生物資源科学部	生物科学科	生物科学教育コース
	生命工学科	生命工学教育コース
	農林生産学科	農業生産学教育コース、森林学教育コース、農林生態学教育コース、農村経済学教育コース
	地域環境科学科	生態環境科学教育コース、環境資源工学教育コース、地域工学教育コース

大学院

研究科	専攻	講座等
人文社会科学研究科 修士課程	法経専攻	法政コース、地域経済コース
	言語・社会文化専攻	言語文化コース、社会文化コース
教育学研究科 修士課程	教育実践開発専攻	学習開発、臨床心理、発達臨床
	教育内容開発専攻	言語系教育、社会系教育、数理系教育、自然系教育、生活系教育、健康系教育、芸術系教育
医学系研究科 博士課程	医科学専攻	研究者育成コース、高度臨床医育成コース、腫瘍専門医育成コース
医学系研究科 修士課程	医科学専攻	総合医科学コース、がん専門薬剤師養成コース、地域医療支援コーディネーター養成コース、医療シミュレータ教育指導者養成コース
	看護学専攻	看護援助学コース、看護管理学コース、母子看護学コース、成人看護学コース、地域在宅看護学コース、高齢者看護学コース、老人看護 CNS コース
総合理工学研究科 博士後期課程	マテリアル創成工学専攻	マテリアル開発工学、マテリアル循環プロセス学
	電子機能システム工学専攻	電子情報システム工学、電子機能集積工学
総合理工学研究科 博士前期課程	総合理工学専攻	理工・医連携コース、物理・材料科学コース、物質化学コース、地球資源環境学コース、数理科学コース、情報システム学コース、機械・電気電子工学コース、建築・生産設計工学コース
生物資源科学研究科 修士課程	生物生命科学専攻	
	農林生産学専攻	
	環境資源科学専攻	
法務研究科 専門職学位課程	法曹養成専攻	

附属図書館

■蔵書数 2012.5.1現在

区分	図書(冊)			雑誌(種)		
	和書	洋書	計	和書	洋書	計
本館	602,596	152,003	754,599	8,403	2,969	11,372
医学図書館	67,812	55,559	123,371	2,231	1,716	3,947

■利用状況

区分	入館者数	貸出冊数	図書の貸借		文献複写	
			貸出	借受	受付	依頼
本館	352,718	52,579	282	447	1,294	2,918
医学図書館	223,995	13,943	39	15	2,182	2,115

■閲覧座席

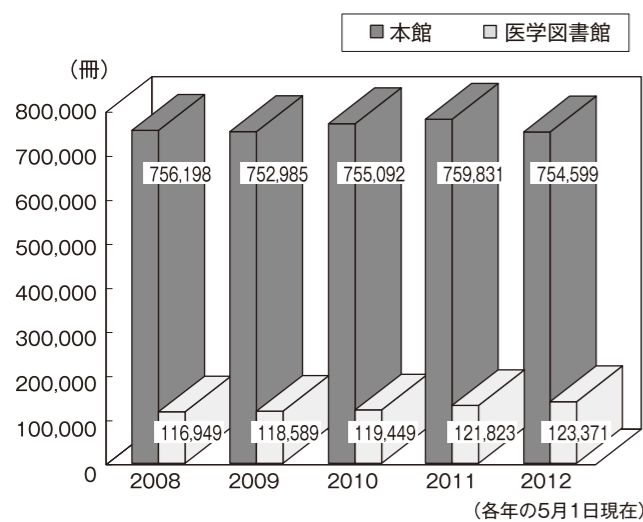
区分	座席数	備考
本館	537	開架閲覧室306席、ロビー14席、ラーニングcommons52席、新聞・雑誌コーナー20席、リフレッシュコーナー14席、新書・文庫コーナー8席、学習室20席、グループ学習室20席、AVルーム14席、メディアルーム41席、研究閲覧室4席、研究個室4席、郷土・八雲室6席、書庫内14席
医学図書館	298	開架閲覧室189席、文献検索コーナー9席、セミナー室22席、自由閲覧室17席、ビデオ室8席、視聴覚室42席、アメニティコーナー11席

■開館時間等

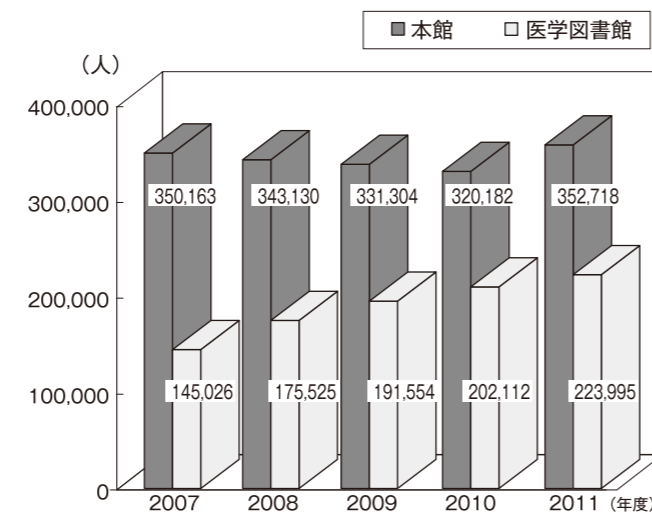
区分	開館時間		休館日
	月曜～金曜	土曜・日曜・休日	
本館	8:30～21:30 (休業期は9:00～19:00 または9:00～17:00)	10:00～17:30 (休業期は休館)	休業期の土曜・日曜・休日 年末・年始(12月29日～1月4日) 夏季一斉休業期間(8月13日～15日) 定例図書整理日(4月を除く偶数月の第4水曜日) 特別整理期間(3月下旬)
医学図書館	9:00～20:00	10:00～16:00	8月および3月の土曜・日曜・休日 年末・年始(12月28日～1月4日) 夏季一斉休業期間(8月13日～15日) 医学図書館長が必要と認めた日

■蔵書数・利用状況の推移

●蔵書数(図書)



●利用状況(入館者数)



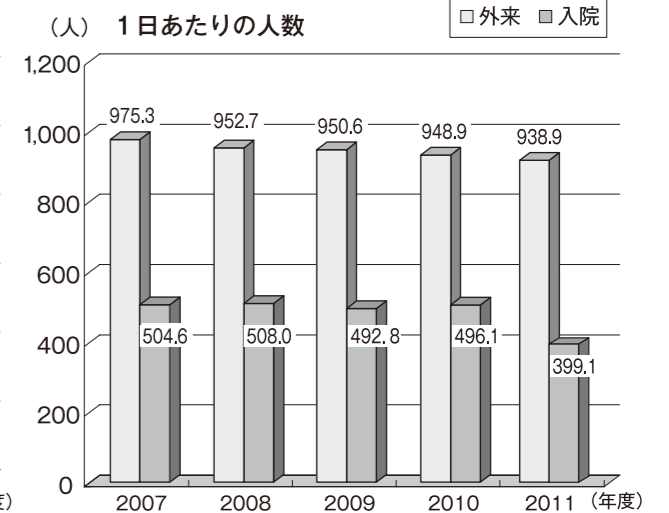
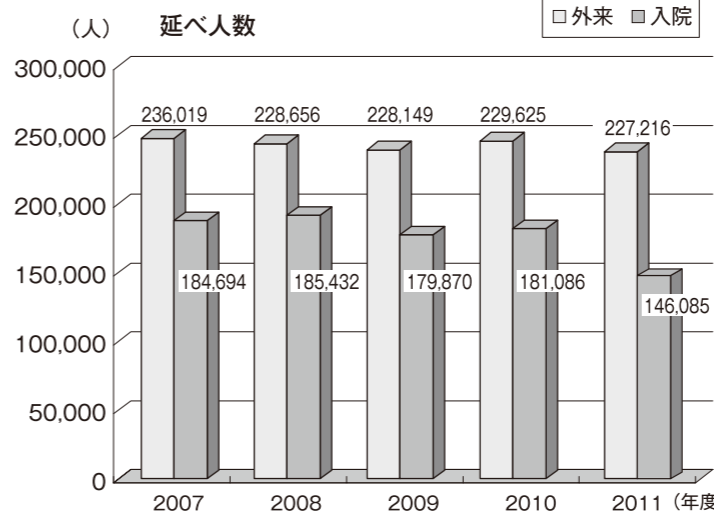
附属病院

■附属病院患者数 (2011.4.1～2012.3.31)

診療科名等	外来患者数		入院患者数	
	延数	1日平均数	延数	1日平均数
内分泌代謝内科	10,809	44.7	3,359	9.2
血液内科	4,328	17.9	6,833	18.7
消化器内科	10,811	44.7	8,452	23.1
肝臓内科	7,142	29.5	3,649	10.0
神経内科	8,681	35.9	7,480	20.4
膠原病内科	6,938	28.7	2,080	5.7
呼吸器・化学療法内科	8,330	34.4	6,545	17.9
腎臓内科	3,411	14.1	1,963	5.4
循環器内科	8,527	35.2	7,017	19.2
皮膚科	14,829	61.3	2,654	7.3
小児科	10,403	43.0	9,291	25.4
消化器外科	9,481	39.2	15,350	41.9
肝・胆・膵外科	692	2.9	585	1.6
小児外科	960	4.0	895	2.4
乳腺・内分泌外科	3,121	12.9	1,217	3.3
心臓血管外科	1,724	7.1	4,291	11.7
呼吸器外科	1,618	6.7	4,396	12.0
整形外科	15,278	63.1	10,817	29.6
脳神経外科	4,596	19.0	6,567	17.9
泌尿器科	14,237	58.8	5,144	14.1
精神科神経科	14,350	59.3	9,676	26.4
産科	2,583	10.7	3,274	8.9
婦人科	9,030	37.3	6,538	17.9
耳鼻咽喉科	6,681	27.6	7,419	20.3
眼科	17,132	70.8	4,636	12.7
放射線科	1,175	4.9	174	0.5
放射線治療科	6,670	27.6	52	0.1
麻酔科	6,221	25.7	955	2.6
救急部	8,872	36.7	827	2.3
腫瘍センター	678	2.8	1,437	3.9
歯科口腔外科	6,860	28.3	2,447	6.7
顎顔面インプラントセンター	1,001	4.1	65	0.2
臨床検査科	47	0.2		
ICU			(2,314)	(6.3)
NICU			(1,327)	(3.6)
HCU			(2,026)	(5.5)
第2HCU			(218)	(0.6)
合計	227,216	938.9	146,085	399.1

※ ICU、NICU、HCU、第2HCUの患者数については、再掲で表示しております。

●患者数の推移



学生数

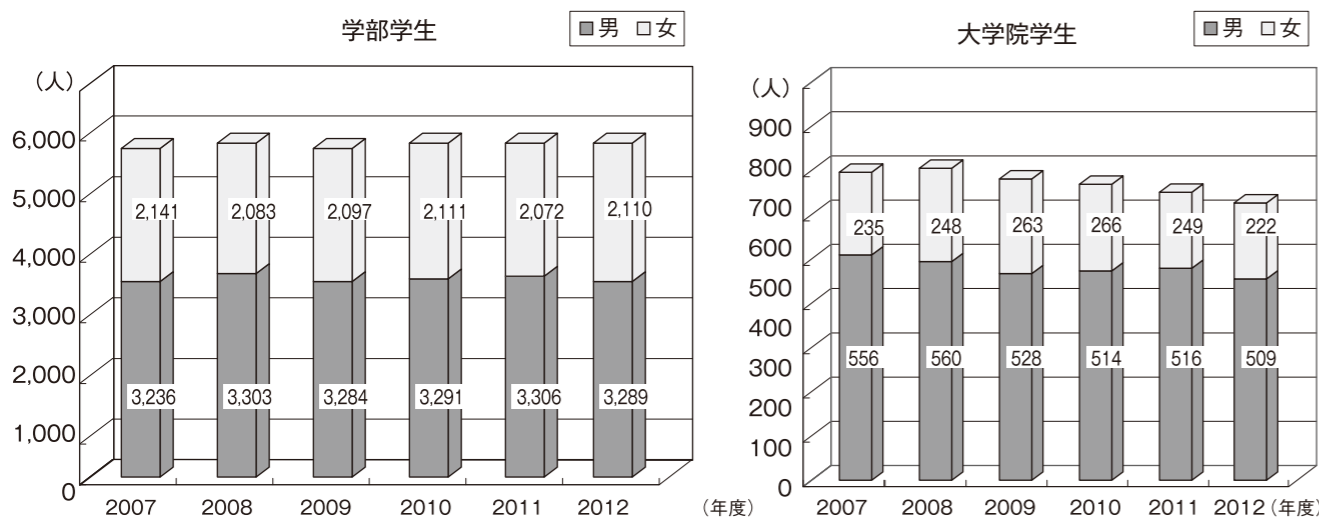
学部

2012.5.1現在

区分	入学定員	収容定員	現員			
			男	女	計	
法文学部	法経学科	90	360	258 (3)	146	404 (3)
	社会文化学科	70	280	142	170 (3)	312 (3)
	言語文化学科	65	260	66 (4)	225 (3)	291 (7)
	計	225 [10]	920	466 (7)	541 (6)	1,007 (13)
教育学部	学校教育課程	170	680	277	428	705
	生活環境福祉課程	—	—	1		1
	計	170	680	278	428	706
医学部	医学科	102	569	367	257	624
	看護学科	60	240	35	229	264
	計	162 [20]	869	402	486	888
総合理工学部	物質科学科	130	520	508 (3)	85 (2)	593 (5)
	地球資源環境学科	50	200	155	52	207
	数理・情報システム学科	100	400	350 (3)	92 (1)	442 (4)
	電子制御システム工学科	—	240	291 (7)	8	299 (7)
	材料プロセス工学科	—	120	121 (3)	24 (3)	145 (6)
	機械・電気電子工学科	80	80	83 (2)	4	87 (2)
	建築・生産設計工学科	40	40	33	6	39
	計	400 [12]	1,632	1,541 (18)	271 (6)	1,812 (24)
生物資源科学部	生物科学科	30	120	79	53 (3)	132 (3)
	生態環境科学科	—	135	95 (3)	69 (1)	164 (4)
	生命工学科	40	160	93	94	187
	農業生産学科	—	90	57	50	107
	地域開発科学科	—	165	151 (2)	50 (2)	201 (4)
	農林生産学科	85	85	50	40 (1)	90 (1)
	地域環境科学科	45	45	44 (3)	9	53 (3)
	計	200 [20]	840	569 (8)	365 (7)	934 (15)
	合計	1,157 [62]	4,941	3,256 (33)	2,091 (19)	5,347 (52)

注) 1. 入学定員欄の【 】は、第3年次編入学定員で外数 2. 現員欄の()は外国人留学生で外数

学部学生・大学院学生数の推移



大学院

2012.5.1現在

区分	入学定員	収容定員	現員									
			修士課程、博士前期課程			医学博士課程、博士後期課程			専門職学位課程			
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	
人文社会科学部	法経専攻	6	12	5 (3)	(3)	5 (6)						
	言語・社会文化専攻	6	12	10	8 (1)	18 (1)						
	計	12	24	15 (3)	8 (4)	23 (7)						
法務研究科	法書養成専攻	20	60							25	10	35
	計	20	60							25	10	35
教育学研究科	教育実践開発専攻	20	40	6	15 (1)	21 (1)						
	教育内容開発専攻	20	40	18	11 (3)	29 (3)						
	計	40	80	24	26 (4)	50 (4)						
医学系研究科	医科学専攻	15	30	16 (1)	17	33 (1)						
	看護学専攻	12	24	2	29	31						
	計	27	54	18 (1)	46	64 (1)						
	医科学専攻	30	120			83 (12)	33 (10)	116 (22)				
	形態系専攻	—	—			2		2				
	機能系専攻	—	—			5	2 (1)	7 (1)				
総合理工学研究科	総合理工学専攻	124	124	95 (3)	11	106 (3)						
	物質科学専攻	—	36	38	10	48						
	地球資源環境学専攻	—	14	7 (4)	4 (1)	11 (5)						
	数理・情報システム学専攻	—	28	24 (1)	7 (1)	31 (2)						
	電子制御システム工学専攻	—	22	45 (3)		45 (3)						
	材料プロセス工学専攻	—	12	11	1	12						
	計	124	236	220 (11)	33 (2)	253 (13)						
	マテリアル創成工学専攻	6	18			7 (7)	2 (5)	9 (12)				
	電子機能システム工学専攻	6	18			6 (3)	1	7 (3)				
	計	12	36			13 (10)	3 (5)	16 (15)				
生物資源科学研究科	生物生命科学専攻	20	40	27 (1)	13	40 (1)						
	農林生産科学専攻	22	44	14 (2)	7 (2)	21 (4)						
	環境資源科学専攻	18	36	20 (2)	8 (2)	28 (4)						
	計	60	120	61 (5)	28 (4)	89 (9)						
合計	325	730	338 (20)	141 (14)	479 (34)	104 (22)	41 (16)	145 (38)	25	10	35	

注) 現員欄の()は外国人留学生で外数

附属学校児童・生徒・幼児数

2012.5.1現在

附属幼稚園

区分	男	女	計	
2年課程	4才児	20	20	40
	5才児	17	19	36
合計	37	39	76	

附属中学校

区分	男	女	計	
1学年	70	70	140	
2学年	68	68	136	
3学年	68	68	136	
特別支援学級	1学年	1	0	1
	2学年	1	0	1
	3学年	0	0	0
合計	208	206	414	

附属小学校

区分	男	女	計	
1学年	29	30	59	
2学年	30	28	58	
3学年	29	30	59	
4学年	33	28	61	
5学年	31	29	60	
6学年	35	44	79	
特別支援学級	5年	0	0	0
	6年	0	0	0
合計	187	189	376	

入試実施状況(2012年度入学)

■学部

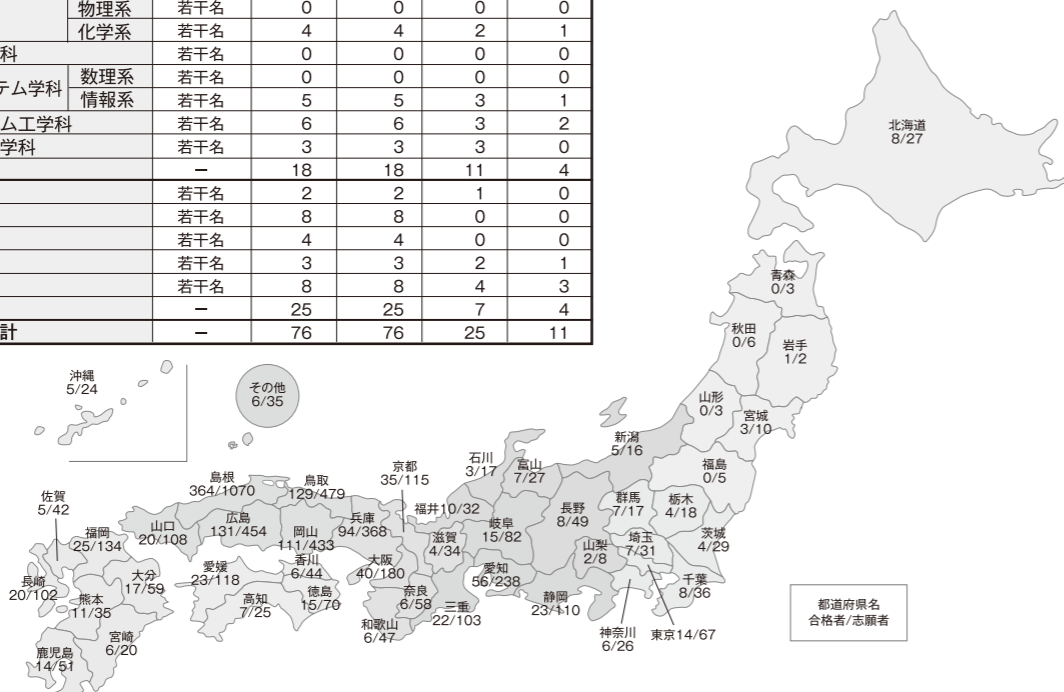
学部・学科・課程・専攻等	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者	入学者出身別(%)			
						県内	県外		
法文学部	法経学科	90	418	257	111	94	27.6	72.4	
	社会文化学科	70	308	202	83	72			
	言語文化学科	65	351	270	80	66			
	計	225	1,077	729	274	232			
教育学部	学校教育課程I類	170	358	256	141	132	46.3	53.7	
	学校教育課程II類		健康・スポーツ教育専攻	100	74	18			18
			音楽教育専攻	25	25	17			17
	美術教育専攻	18	16	8	8				
計	170	501	371	184	175	—	—		
医学部	医学科	102	673	568	102	102	37.6	62.4	
	看護学科	60	273	179	66	63			
	計	162	946	747	168	165			
総合理工学部	物質科学科	400	510	370	148	135	23.3	76.7	
	地球資源環境学科		206	170	56	52			
	数理・情報システム学科		444	351	108	96			
	電子制御システム工学科		219	142	88	87			
	材料プロセス工学科		169	163	53	39			
	理工特別コース		8	8	3	3			
計	400	1,556	1,204	456	412	—	—		
生物資源科学部	生物科学科	30	120	84	33	32	15.0	85.0	
	生態環境科学科	45	177	130	55	53			
	生命工学科	40	188	184	49	45			
	農業生産学科	30	142	141	32	30			
	地域開発科学科	55	360	255	62	60			
計	200	987	794	231	220	—	—		
合計	1,157	5,067	3,845	1,313	1,204	27.9	72.1		

注1. 医学部の受験者数は第1段階選抜不合格者を除く数である。注2. 帰国生入試の人数には生物資源科学部の平成23年度秋季入学入試に係る数は含まない。
注3. 私費外国人留学生入試、3年次編入学は含まない。

■私費外国人留学生入試

学部・学科・課程・専攻等	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者		
法文学部	法経学科	若干名	6	6	1	1	
	社会文化学科	若干名	12	12	4	1	
	言語文化学科	若干名	15	15	2	1	
	計	—	33	33	7	3	
総合理工学部	物質科学科	若干名	0	0	0	0	
	地球資源環境学科	物理系	若干名	4	4	2	1
		化学系	若干名	0	0	0	0
	数理・情報システム学科	数理系	若干名	0	0	0	0
		情報系	若干名	5	5	3	1
	電子制御システム工学科	若干名	6	6	3	2	
材料プロセス工学科	若干名	3	3	3	0		
計	—	18	18	11	4		
生物資源科学部	生物科学科	若干名	2	2	1	0	
	生態環境科学科	若干名	8	8	0	0	
	生命工学科	若干名	4	4	0	0	
	農業生産学科	若干名	3	3	2	1	
	地域開発科学科	若干名	8	8	4	3	
計	—	25	25	7	4		
合計	—	76	76	25	11		

●都道府県別志願者・合格者



■内訳

(1) 一般入試

学部・学科・課程・専攻等	試験日程	募集人員	志願者	受験者	合格者	追加合格者	入学者					
								前	後	前	後	前
法文学部	法経学科	45	129	121	55	0	83					
								35	260	107	45	
	社会文化学科	20	180	180	77	29	0	65				
									43	99	97	47
	言語文化学科	38	190	180	48	0	59					
計	201	993	646	249	0	207						
教育学部	学校教育課程I類	74	146	136	81	0	90					
								16	117	25	18	
	学校教育課程II類	8	32	32	9	0	14					
								健康・スポーツ教育専攻	4	57	31	5
								音楽教育専攻	10	11	11	10
	美術教育専攻	4	12	10	4	0	4					
計	116	375	245	127	0	118						
医学部	医学科	62	552	447	62	0	62					
	看護学科	32	101	91	37	0	46					
	計	104	779	580	111	0	108					
総合理工学部	物質科学科	33	120	102	41	0	50					
								物理受験コース	15	70	29	15
	化学受験コース	45	167	156	53	0	61					
								10	96	26	15	
	地球資源環境学科	28	141	132	31	0	40					
								10	47	20	13	
	数理・情報システム学科	48	199	186	57	0	65					
								20	139	59	20	
	電子制御システム工学科	35	72	65	38	0	52					
								15	93	23	15	
	材料プロセス工学科	23	99	93	32	0	26					
5								49	49	8		
計	287	1,292	940	338	0	294						
生物資源科学部	生物科学科	17	46	43	20	0	24					
								5	58	25	5	
	生態環境科学科	30	98	93	39	0	42					
								5	61	19	5	
	生命工学科	29	124	120	38	0	39					
								5	56	56	5	
	農業生産学科	17	52	51	18	0	21					
								5	55	55	5	
地域開発科学科	30	185	174	41	0	46						
							7	159	65	7		
計	150	894	701	183	0	172						
合計	858	4,333	3,112	1,008	0	899						

(2) 専門高校・総合学科卒業生入試

注1. 「前」…前期日程「後」…後期日程 注2. 医学部医学科の受験者数は第1段階選抜不合格者を除く数である。

学部・学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	追加合格者	入学者
医学部	3以内	6	6	2	—	2
合計	3以内	6	6	2	—	2

(3) 推薦入試I

学部・学科・課程・専攻等	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者		
法文学部	法経学科	10	27	27	10	10	
	社会文化学科	7	27	27	7	7	
	言語文化学科	7	26	26	7	7	
	計	24	80	80	24	24	
教育学部	学校教育課程I類	自然環境教育専攻	4	3	3	2	2
		人間生活環境教育専攻	4	6	6	4	4
	学校教育課程II類	健康・スポーツ教育専攻	4	11	11	4	4
		音楽教育専攻	6	14	14	7	7
		美術教育専攻	4	6	6	4	4
計	22	40	40	21	21		
総合理工学部	物質科学科	物理受験コース	5	8	8	5	5
		化学受験コース	4	15	15	5	5
	地球資源環境学科	7	8	8	7	7	
	数理・情報システム学科	数理系コース	9	31	31	9	9
		情報系コース	10	32	32	11	11
	電子制御システム工学科	15	33	33	20	20	
材料プロセス工学科	11	21	21	13	13		
計	61	148	148	70	70		
生物資源科学部	生物科学科	8	16	16	8	8	
	生態環境科学科	10	18	18	11	11	
	生命工学科	6	8	8	6	6	
	農業生産学科	8	35	35	9	9	
	地域開発科学科	18	16	16	14	14	
計	50	93	93	48	48		
合計	157	361	361	163	163		

入試実施状況(2012年度入学)

(4) 推薦入試Ⅱ

学部・学科・課程・専攻等		募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者	
医学部	医学科	25以内	79	79	25	25	
	看護学科	15	40	40	15	15	
	計	40	119	119	40	40	
総合理工学部	物質科学科	物理受験コース	10	19	19	10	10
			化学受験コース	4	15	15	4
	数理・情報システム学科	数理系コース	5	29	29	5	5
			情報系コース	5	14	14	6
	電子制御システム工学科		13	21	21	15	15
計		37	98	98	40	40	
合計		77	217	217	80	80	

(5) 地域枠推薦入試

学部・学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
医学部 医学科	10以内	28	28	10	10
合計	10以内	28	28	10	10

(6) 緊急医師確保対策枠推薦入試

学部・学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
医学部 医学科	5以内	14	14	5	5
合計	5以内	14	14	5	5

(7) アドミッション・オフィス入試

学部・学科・課程		区分	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者	
教育学部	学校教育課程Ⅰ類	文系型	AOⅡ	20	65	65	26	26
		理系型	AOⅡ	12	21	21	10	10
	計	—	32	86	86	36	36	
総合理工学部	地球資源環境学科	AOⅠ	5	10	10	5	5	
	理工特別コース	AOⅡ	10	8	8	3	3	
	計	—	15	18	18	8	8	
合計		AOⅠ	5	10	10	5	5	
		AOⅡ	42	94	94	39	39	
		—	47	104	104	44	44	

注1.「AOⅠ」…AO入試Ⅰ(センター試験を課さない) 「AOⅡ」…AO入試Ⅱ(センター試験を課す)

(8) 社会人入試

学部・学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者	
法学部	法経学科	若干名	1	1	1	1
	社会文化学科	若干名	2	1	0	0
	言語文化学科	若干名	0	0	0	0
合計	—	3	2	1	1	

(9) 帰国生入試

学部・学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者	
法学部	法経学科	推薦1と合計10名	1	1	0	0
	社会文化学科	若干名	0	0	0	0
	言語文化学科	若干名	0	0	0	0
	計	—	1	1	0	0
生物資源科学部	各学科	若干名	0	0	0	0
合計	—	1	1	0	0	

注1. 帰国生入試の人数には生物資源科学部の平成23年度秋季入学入試に係る数は含まない。

■第3年次編入学

学部・学科		区分	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
法学部	法経学科	一般		13	12	2	1
	社会文化学科	一般	10	5	4	4	4
	言語文化学科	一般		5	5	4	3
	計	—	10	23	21	10	8
医学部	医学科(学士入学)	一般	10	274	229	13	10
	看護学科	一般	10	26	26	13	10
	計	—	20	300	255	26	20
総合理工学部	物質科学科	物理系	推薦	0	0	0	0
			一般	0	0	0	0
		化学系	推薦	0	0	0	0
			一般	1	1	0	0
	地球資源環境学科	一般		2	2	0	0
	数理・情報システム学科	数理系	推薦	0	0	0	0
			一般	3	2	1	1
		情報系	推薦	1	1	0	0
	一般	6	6	3	3		
	電子制御システム工学科	推薦	4	4	3	3	
	一般	8	8	5	4		
	材料プロセス工学科	推薦	3	3	3	3	
	一般	6	6	3	3		
計	—	20	34	33	18	17	
生物資源科学部	生物科学科	推薦		0	0	0	0
		一般		4	4	3	2
	生態環境科学科	推薦		6	6	4	4
		一般		7	7	2	2
	生命工学科	推薦		1	1	1	1
		一般		5	5	4	4
	農業生産学科	推薦		3	3	1	1
		一般		15	15	5	3
地域開発科学科	推薦		2	2	2	2	
一般		7	7	3	3		
計	—	20	50	50	25	22	
合計		—	70	407	359	79	67

■大学院

研究科・専攻		入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者
人文社会科学 研究科	法経専攻	6	8	8	7	5
	言語・社会文化専攻	6	12	11	10	9
	計	12	20	19	17	14
教育学研究科 (修士課程)	教育実践開発専攻	20	39	38	21	17
	教育内容開発専攻	20	23	23	17	17
	計	40	62	61	38	34
医学系研究科 (修士課程)	医科学専攻	15	16	16	16	16
	看護学専攻	12	13	13	13	13
	計	27	29	29	29	29
(博士課程)	医科学専攻	30	31	31	31	31
	計	30	31	31	31	31
	総合理工学研究科 (博士前期課程)	物質科学専攻	36	49	45	41
(博士後期課程)	地球資源環境学専攻	14	14	14	14	11
	数理・情報システム学専攻	28	33	31	28	23
	電子制御システム工学専攻	22	39	36	30	26
	材料プロセス工学専攻	12	19	19	18	15
	計	112	154	145	131	109
	マテリアル創成工学専攻	6	1	1	1	1
生物資源科学 研究科 (修士課程)	電子機能システム工学専攻	6	4	4	3	3
	計	12	5	5	4	4
	生物生命科学専攻	20	30	28	26	25
	農林生産科学専攻	22	10	9	9	8
法務研究科	環境資源科学専攻	18	17	17	17	15
	計	60	57	54	52	48
	法書養成専攻	20	16	15	8	3
	計	20	16	15	8	3
合計		313	374	359	310	272

■2013年度入試日程(予定)

区分	募集要項発表	願書受付期間	試験実施日	合格発表	
特別入試	社会人入試(法学部)	7月下旬	11/1~11/7	11/23	12/3
	推薦入試Ⅰ(法学部,教育学部)			11/26-27	
	推薦入試Ⅰ(総合理工学部,生物資源科学部)			12/8	2/13
	推薦入試Ⅱ(医学部)			2/7	
	推薦入試Ⅱ(総合理工学部)			11/1~11/7	
一般入試	地域枠推薦入試(医学部医学科)	7月下旬	11/30~12/6	書類選考	1/16
	緊急医師確保対策枠推薦入試(医学部医学科)			11/23	
	私費外国人留学生入試 (法学部,総合理工学部,生物資源科学部)			11/26	12/3
	帰国生(法学部)			2/25-26	
帰国生(生物資源科学部)	11月下旬	1/28~2/6	3/12	3/22	
後期日程			2/25-26	3/7	
専門高校・総合学科卒業生入試(医学部看護学科)			2/25-26	3/7	
AO入試(教育学部)	7月下旬	10/1~10/5	11/23	2/13	
AO入試(総合理工学部 理工特別コース)	6/21		11/26-27		
AO入試(総合理工学部 地球資源環境学科)			8/1~8/7	9/24	10/5

卒業生数・修了者数

■学部

2012.3.31現在

区	分	2011年度卒業生	累計
法文学部	法経学科	80	413
	社会文化学科	71	348
	言語文化学科	77	969
	法学科	1	3,988
	社会システム学科	—	762
	文学科	—	1,586
	計	229	8,066
教育学部	学校教育課程	168	844
	学校教育教員養成課程	—	1,093
	生涯学習課程	—	527
	生活環境福祉課程	—	174
	小学校教員養成課程	—	4,790
	中学校教員養成課程	—	2,546
	養護学校教員養成課程	—	570
	幼稚園教員養成課程	—	574
	特別教科(音楽)校教員養成課程	—	1,152
	特別教科(保健体育)校教員養成課程	—	856
	社会教育文化課程	—	398
	計	168	13,524
医学部	医学科	97	2,974
	看護学科	65	680
	計	162	3,654
総合理工学部	物質科学科	121	1,508
	地球資源環境学科	42	561
	数理・情報システム学科	85	1,159
	電子制御システム工学科	77	903
	材料プロセス工学科	48	555
	計	373	4,686
生物資源科学部	生物科学科	28	383
	生態環境科学科	47	654
	生命工学科	39	524
	農業生産学科	34	428
	地域開発科学科	48	718
	計	196	2,707
文理学部		—	3,950
理学部		—	3,510
農学部		—	5,141
合計		1,128	45,238

■専攻科他

区	分	2011年度修了者	累計
文学専攻科		—	18
理学専攻科		—	45
教育専攻科		—	232
農学専攻科		—	11
合計		—	306
教育学部 教員養成2年課程		—	1,106

■大学院

2012.3.31現在

区	分	2011年度修了者 (単位取得退学含む)	累計
人文社会科学研究科	法経専攻	7	35
	言語・社会文化専攻	5	43
	法学専攻	—	56
	社会システム専攻	—	43
	言語文化専攻	—	32
	計	12	209
	教育学研究科	教育実践開発専攻	18
教育内容開発専攻		16	64
学校教育専攻		—	187
教科教育専攻		—	412
計		34	717
医学系研究科 (博士課程)	形態系専攻	4	162
	機能系専攻	3	173
	生態系専攻	1	52
	医科学専攻	23	23
	計	31	410
医学系研究科 (修士課程)	医科学専攻	15	60
	看護学専攻	12	77
	計	27	137
総合理工学研究科 (博士後期課程)	マテリアル創成工学専攻	10	56
	電子機能システム工学専攻	4	25
	計	14	81
総合理工学研究科 (博士前期課程)	物質科学専攻	29	421
	地球資源環境学専攻	9	169
	数理・情報システム学専攻	20	244
	電子制御システム工学専攻	32	295
	材料プロセス工学専攻	7	121
	計	97	1,250
生物資源科学研究科	生物生命科学専攻	25	68
	農林生産科学専攻	10	40
	環境資源科学専攻	16	45
	生物科学専攻	—	71
	生態環境科学専攻	—	133
	生命工学専攻	—	110
	農業生産学専攻	—	66
	地域開発科学専攻	1	69
	計	52	602
法務研究科	法曹養成専攻	10	105
	計	10	105
理学研究科		—	616
農学研究科		—	739
法学研究科		—	80
合計		277	4,946

■博士の学位授与者数

2012.3.31現在

区	分	課程博士		論文博士	
		2011年度	累計	2011年度	累計
医学系研究科		21	378	6	288
総合理工学研究科		12	76	0	5

科学研究費補助金等の受入状況(2011年度)

■科学研究費補助金

研究種目	件数	金額(千円)
新学術領域研究	3	24,528
基盤研究(B)	24	57,990
基盤研究(C)	108	95,459
挑戦的萌芽研究	22	15,802
若手研究(A)	2	1,190
若手研究(B)	72	60,521
研究活動スタート支援	6	7,210
特別研究員奨励費	5	3,700
奨励研究	5	2,500
研究成果公開促進費	2	2,400
計	249	271,299

■民間等との共同研究

件数	金額(千円)
97	93,675

■受託研究

件数	金額(千円)
70	240,345

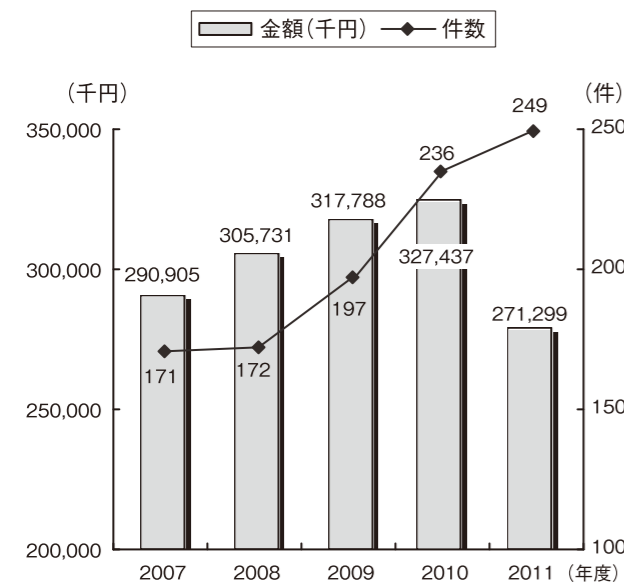
■寄付金

件数	金額(千円)
633	575,294

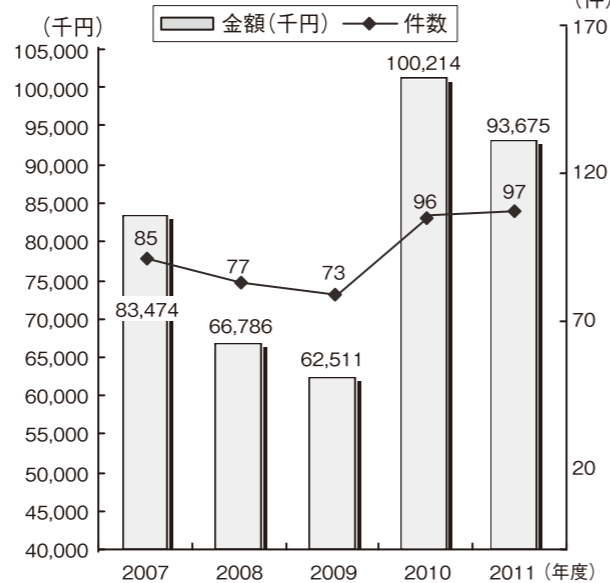
■発明届出等状況(2011年度)

発明届件数	出願件数
23	25

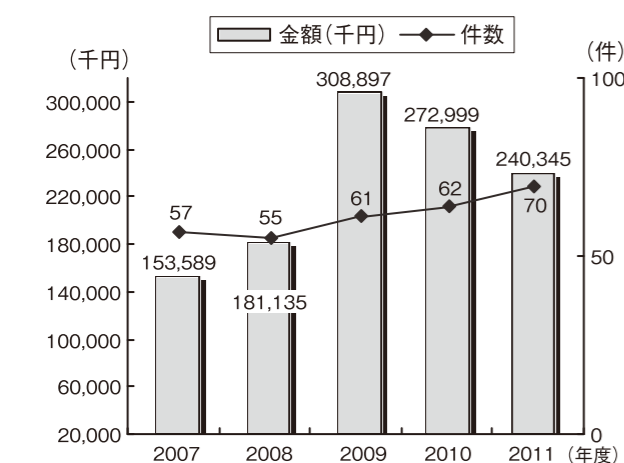
●科学研究費補助金受入状況



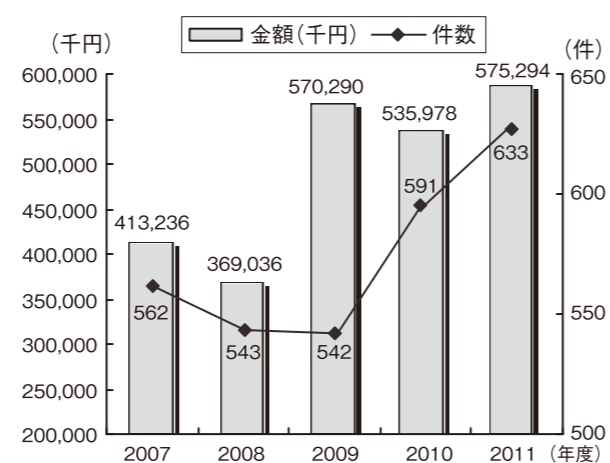
●民間等との共同研究実施状況



●受託研究受入状況



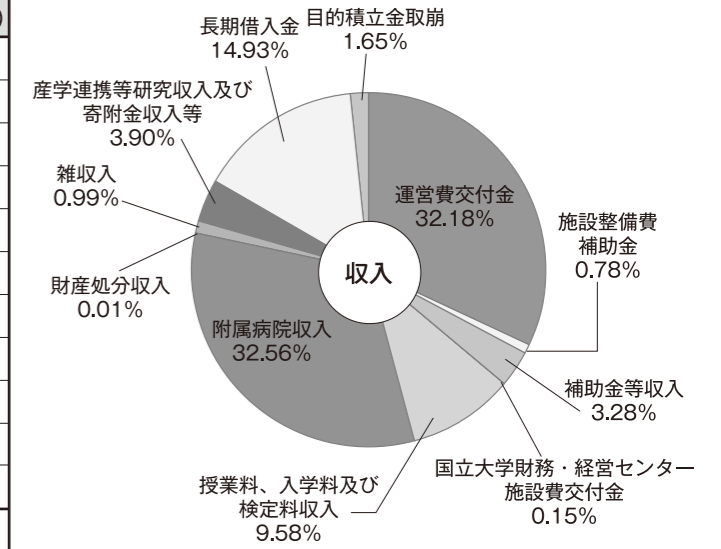
●寄付金受入状況



収入・支出決算額(2011年度)

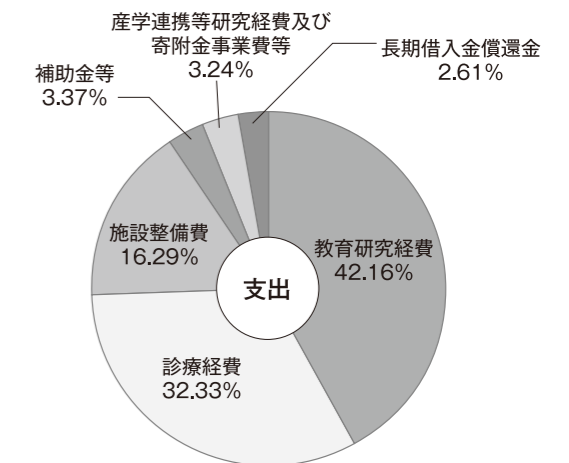
■収入

区分	金額(百万円)
運営費交付金	11,491
施設整備費補助金	278
補助金等収入	1,173
国立大学財務・経営センター施設費交付金	53
授業料、入学金及び検定料収入	3,420
附属病院収入	11,628
財産処分収入	4
雑収入	352
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	1,391
長期借入金	5,333
目的積立金取崩	589
合計	35,712

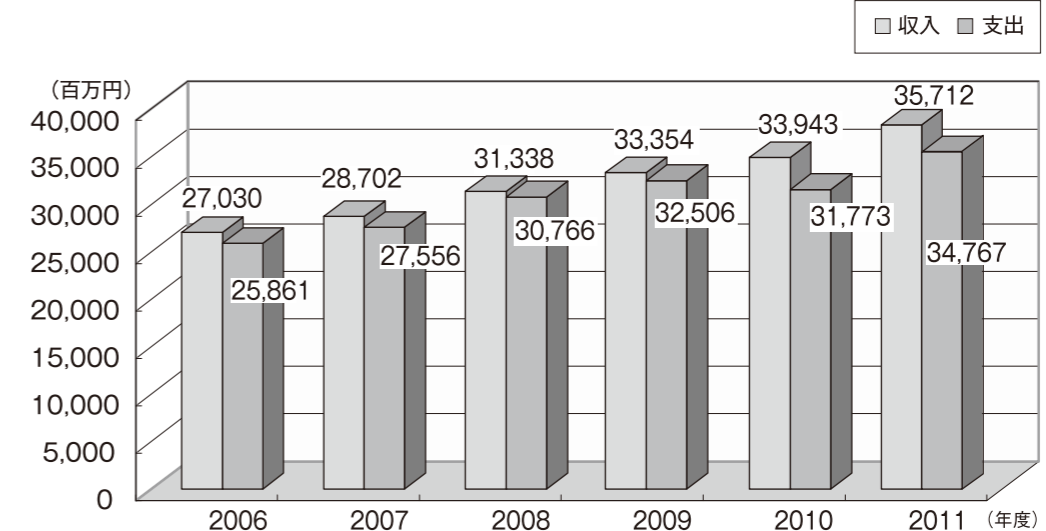


■支出

区分	金額(百万円)
教育研究経費	14,659
診療経費	11,240
施設整備費	5,664
補助金等	1,173
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	1,125
長期借入金償還金	906
合計	34,767



●収入・支出(歳入・歳出)の推移

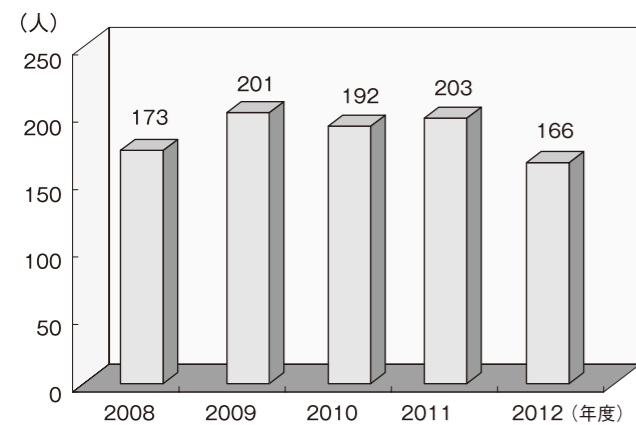


外国人留学生の受入状況

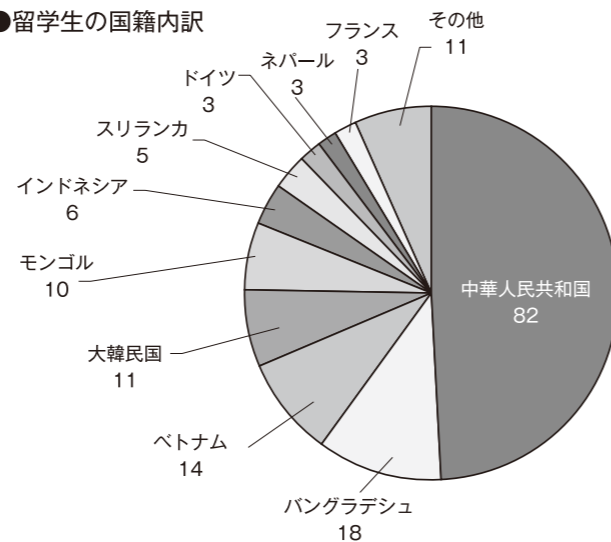
2012.5.1現在

学部等	法文学部		法文学部		教育学部		教育学部		医学部		医学部		総合理工学部			総合理工学部			生物資源科学部			生物資源科学部			鳥取大学連合農学研究科		鳥取大学連合農学研究科		総計
	学部学生	研究生等	大学院学生	大学院学生	大学院学生	大学院学生	大学院学生	大学院学生	大学院学生	大学院学生	大学院学生	大学院学生	学部学生	研究生等	大学院学生	学部学生	研究生等	大学院学生	学部学生	研究生等	大学院学生	学部学生	研究生等	大学院学生	大学院学生	大学院学生	大学院学生		
中華人民共和国	9	6	7	22		4	4	8	8	13	2	9	24	10	4	4	18	6	6	82									
バングラデシュ		1		1				9	9			2	2				1	1	5	5	18								
ベトナム										8	1	9	3			2	5			14									
大韓民国	4	3		7	2		2				1	1	1			1				11									
モンゴル					1		1	4	4			4	4			1	1			10									
インドネシア								1	1			3	3	1		1	2			6									
スリランカ											1	4	5							5									
ドイツ		3		3																3									
ネパール												1	1					2	2	3									
フランス		3		3																3									
マレーシア										2		2								2									
ナイジェリア											1	1						1	1	2									
ギニア											2	2								2									
ミャンマー								1	1			1	1							2									
キューバ																	1	1		1									
カンボジア										1		1								1									
イギリス								1	1											1									
総計	13	16	7	36	3	4	7	24	24	24	4	28	56	15	5	9	29	14	14	166									

●留学生数の推移



●留学生の国籍内訳



外国への留学状況

■島根大学から留学した学生の数（2010年度）
（留学、語学研修、異文化研修、学会、フィールド調査等を含む）

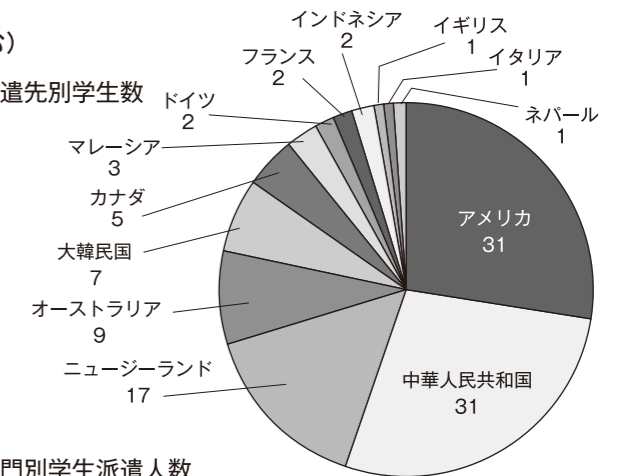
1. 派遣先別

アメリカ	31
中華人民共和国	31
ニュージーランド	17
オーストラリア	9
大韓民国	7
カナダ	5
マレーシア	3
ドイツ	2
フランス	2
インドネシア	2
イギリス	1
イタリア	1
ネパール	1
合計	112

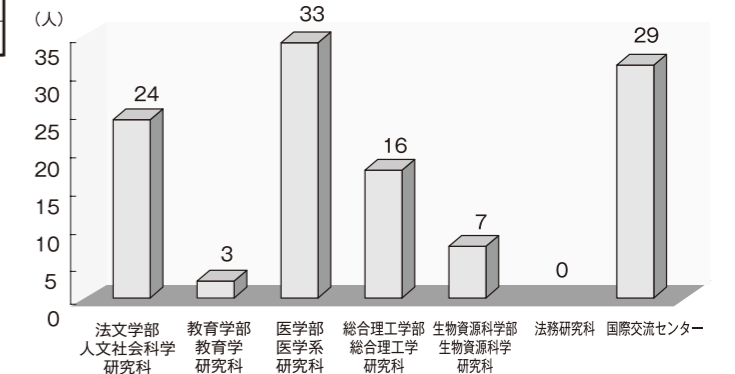
2. 部門別

法文学部	24
人文社会科学研究科	3
教育学部	33
教育学研究科	16
医学部	7
医学系研究科	0
総合理工学部	29
総合理工学研究科	1
生物資源科学部	
生物資源科学研究科	
法務研究科	
国際交流センター	
合計	112

●派遣先別学生数



●部門別学生派遣人数



■島根大学から交流協定校に交換留学した学生の数（2011年度）

派遣先	法文学部	教育学部	医学部	総合理工学部	生物資源科学部	総計
アメリカ	3	0	0	1	0	4
ドイツ	2	0	0	0	0	2
フランス	2	0	0	0	0	2
総計	7	0	0	1	0	8

奨学生数

2012.3.1現在

区分	学生数	日本学生支援機構			比率
		第一種	第二種	計	
法文学部	993	205	305	510	51.4
教育学部	701	144	222	366	52.2
医学部	869	137	211	348	40.0
総合理工学部	1,775	329	590	919	51.8
生物資源科学部	899	188	297	485	53.9
計	5,237	1,003	1,625	2,628	50.2
人文社会科学研究科	22	4	3	7	31.8
教育学研究科	50	17	3	20	40.0
医学系研究科	123	2	2	4	3.3
	62	3	0	3	4.8
総合理工学研究科	247	121	27	148	59.9
	20	9	1	10	50.0
生物資源科学研究科	94	38	9	47	50.0
法務研究科	45	13	5	18	40.0
計	663	207	50	257	38.8
合計	5,900	1,210	1,675	2,885	48.9

定期刊行文献

●学術雑誌

発行部局等名	文献誌名	編集	発行回数(年)
法文学部	島根大学 経済科学論集	法経学科・法務研究科	4
	社会文化論集	法経学科	1
	島根大学社会福祉論集	社会文化学科	1
	島大言語文化	社会文化学科福祉社会教室	不定期
	山陰研究	言語文化学科	2
教育学部	島根大学教育学部紀要(教育科学、人文・社会科学、自然科学)	山陰研究センター	1
	島根大学教育臨床総合研究	教育学部	1
	島根大学教育学部心理臨床・教育相談室紀要	教育学部附属教育支援センター	1
	附属小学校研究紀要	教育学部心理臨床・教育相談室	1
	附属中学校研究紀要	附属小学校	1
	附属中学校研究紀要	附属中学校	1
	附属学校園研究紀要	附属学校園	1
医学部	島根大学医学部紀要, Shimane Journal of Medical Science	医学部	2
総合理工学部	島根大学総合理工学部紀要	総合理工学部	1
	島根大学地球資源環境学研究報告	総合理工学部地球資源環境学科	1
生物資源科学部	島根大学生物資源科学部研究報告	生物資源科学部	1
法務研究科	島根大学法文学部紀要法経学科・法務研究科篇〔島大法学〕	法文学部法経学科・法務研究科	4
生涯学習研究センター	島根大学生涯学習研究センター年報	生涯学習研究センター	1
総合科学研究支援センター	島根大学総合科学研究支援センター教育研究活動報告	総合科学研究支援センター	1
汽水域研究センター	島根大学汽水域研究センター年次報告	汽水域研究センター	1
外国語教育センター	島根大学外国語教育センタージャーナル	外国語教育センター	1
島根大学・寧夏大学国際共同研究所	島根大学・寧夏大学国際共同研究所年報	島根大学・寧夏大学国際共同研究所	1

●広報紙等

発行部局等名	文献紙名	編集	発行回数(年)
総務課	島根大学概要	広報室	1
	島根大学案内	広報室	1
	広報しまだい	広報室	4
法文学部	島根大学法文学部(学部案内)	法文学部	1
教育学部	島根大学教育学部(学部案内)	教育学部	1
	ShimanEdu.[シマネージュ]	教育学部	不定期
	1000時間体験学修	教育学部附属教育支援センター	1
	島根大学教員免許状更新講習パンフレット	教育学部附属教師教育研究センター	1
	こころとそだちの相談室	教育学部心理・発達臨床相談室	1
	園要覧(附属幼稚園)	附属幼稚園	1
	おりづる	附属幼稚園	5
	学校要覧(附属小学校)	附属小学校	1
	附小だより	附属小学校	6
	ちどり	附属小学校	3
	学校要覧(附属中学校)	附属中学校	1
	若樹	附属中学校	3
	医学部	島根大学医学部(学部案内)	医学部
医学部附属病院	病院ニュース しろうさぎ	附属病院	4
総合理工学部	島根大学総合理工学部(学部案内)	総合理工学部	1
生物資源科学部	島根大学生物資源科学部(学部案内)	生物資源科学部	1
	生物資源科学部だより	生物資源科学部	2
法務研究科	島根大学法科大学院(山陰法科大学院)パンフレット	法務研究科	1
	島根大学大学院法務研究科(山陰法科大学院)地域法律相談センター案内	法務研究科	1
附属図書館	島根大学附属図書館概要	図書情報課	3年毎
	島根大学附属図書館年報	図書情報課	1
	島根大学附属図書館報: 松雲	図書情報課	2
	本館ニュース「Li Me ライム」	図書情報課	毎月
医学図書館ニュース「インフォ・アクセス」	図書情報課	毎月	
保健管理センター	保健管理センターのしおり	保健管理センター	1
生涯学習教育研究センター	島根大学生涯学習教育研究センター年報	生涯学習教育研究センター	1
	島根大学生涯学習教育研究センターパンフレット	生涯学習教育研究センター	不定期
総合情報処理センター	島根大学総合情報処理センター(概要)	総合情報処理センター	不定期
	島根大学総合情報処理センター・News Letter	総合情報処理センター	1
産学連携センター	島根大学研究シーズ集	産学連携センター	不定期
	島根大学産学連携センター年報	産学連携センター	1
	島根大学産学連携センター・ニュースレター	産学連携センター	1
ミュージアム	島根大学ミュージアム・ニュースレター	ミュージアム	不定期
	島根大学ミュージアム年報	ミュージアム	1
教育開発センター	島根大学教育開発センター年報	教育開発センター	1
	島根大学教育開発センターパンフレット	教育開発センター	不定期
	島根大学優良教育実践表彰者の声	教育開発センター	1
	島根大学「学生による授業評価」速報	教育開発センター	2
	島根大学卒業生・修了生に対する教育成果の検証に関する調査報告書	教育開発センター	不定期
入試センター	高大接続研究	入試センター	1
キャリアセンター	島根大学キャリアセンター年報	キャリアセンター	1
	就活ハンドブック	キャリアセンター	1
	島大就活日記	キャリアセンター	1
	企業就職担当者向けパンフレット	キャリアセンター	1
男女共同参画推進室	島根大学男女共同参画推進室メールマガジン「さぼっと通信」	男女共同参画推進室	不定期
	島根大学男女共同参画推進室事業報告書	男女共同参画推進室	不定期
国際交流センター	SHIMANE UNIVERSITY PROSPECTUS	国際交流センター	1
	SHIMANE UNIVERSITY PROSPECTUS(大学院版)	国際交流センター	1
	島根大学リーフレット	国際交流センター	不定期

土地・建物

2012.5.1現在

区分	土地	建物		備考
		延面積	面積	
松江キャンパス	㎡	㎡	㎡	
西川津地区	176,882	38,261	117,932	
本部管理棟		704	2,789	
法文学部		1,921	7,631	
教育学部		4,132	16,554	
総合理工学部		6,952	34,541	1,2,3号館
生物資源科学部		5,047	22,342	1,2,3号館
生物資源科学部附属施設		1,259	1,367	水利実験室、農業機械実験室、林産加工場、製材室
教養講義室		1,301	4,292	1,2号館
大学ホール		820	831	
附属図書館		2,035	6,826	
遺伝子実験施設		515	1,514	
保健管理センター		256	474	
総合情報処理センター		361	683	
ミュージアム		155	155	
汽水域研究センター		250	774	
古代出雲研究施設		65	130	
光物性実験室		53	53	
動物飼育室		50	50	
体育施設		4,863	5,293	第一、第二体育館、トレーニングセンター、プール棟、武道場、弓道場
学生センター		782	1,400	
学生支援センター		345	656	
大学会館松江		877	2,166	
学生食堂		1,592	1,636	学生食堂、第二食堂
課外活動施設		515	1,976	
環境安全施設		180	180	
有機廃液焼却施設		93	93	
中央監視室		69	69	
特高受変電室棟		168	336	
その他		2,901	3,121	倉庫建及び雑屋建
深町地区(学寮)	23,711	2,036	4,334	
大輪地区	54,654	8,468	15,268	
教育学部附属幼稚園		748	912	園舎、物置器具置場
教育学部附属小学校		3,882	7,364	校舎、体育館
教育学部附属中学校		3,838	6,992	校舎、体育館
その他の地区				
汽水域研究センター-中海分室	3,123	410	377	
国際交流会館松江	3,182	435	830	
生物資源科学部附属生物資源教育研究センター				
森林部門	5,708,567	484	692	三瓶演習林、匹見演習林、松江試験地
農業生産科学部門	272,500	5,320	6,150	本庄総合農場、神西砂丘農場
海洋生物科学部門	4,318	743	1,305	隠岐臨海実験所
第2運動場	4,864	74	74	
朝酌艇庫	1,315	304	364	
研究者交流会館	1,119	347	503	
産学連携センター(松江)		668	1,141	地域産業共同研究部門、知的財産創活部門、連携企画推進部門
その他	1,825			京田、曲り田
出雲キャンパス	220,198	40,465	127,300	
本部棟		981	3,351	
講義棟		661	1,915	
実習棟		1,180	4,525	
基礎研究棟		631	4,932	
臨床研究棟		903	4,647	
共同研究棟		601	2,312	
第二研究棟		754	3,715	
第二共同研究棟		395	1,087	
第三共同研究棟		216	420	
第四共同研究棟		207	415	
RI-動物実験施設		1,201	3,944	
附属図書館(医学部分館)		1,026	2,232	
附属病院棟		14,038	57,977	外来・中央診療棟、病棟
高エネルギー診療棟		1,156	1,270	
臨床講義棟		884	1,434	
大学会館出雲		833	1,998	
体育館		1,315	1,175	
武道場		437	402	武道場、弓道場
中央機械室		1,923	2,567	
医学部会館		451	586	
保育所		186	186	
MRI-CT装置棟		531	531	
病歴室		175	482	
第三研究棟		333	1,335	
RI研究棟		193	428	
塵芥焼却炉室・発電機室		300	300	
国際交流会館出雲		412	843	
看護学科棟		1,211	6,189	
看護師宿舎		984	4,007	
廃水処理施設管理室		340	336	
RI排水処理施設		216	259	
特高受変電棟		215	410	
産学連携センター(出雲)		846	2,268	地域医学共同部門
立体駐車場		3,921	7,771	
その他		809	1,051	

連絡先一覧

大学ホームページ <http://www.shimane-u.ac.jp> E-mail: webinfo@jn.shimane-u.ac.jp

学部等	電話	E-mail
法文学部	0852-32-6113	hor-soumu1@jn.shimane-u.ac.jp
教育学部	0852-32-6251	kyo-soumu@jn.shimane-u.ac.jp
附属教育支援センター	0852-32-9836	aces@edu.shimane-u.ac.jp
附属教師教育研究センター	0852-32-6495	crte-shimane@edu.shimane-u.ac.jp
附属FD戦略センター	0852-32-9850	
附属幼稚園	0852-29-1120	sora@edu.shimane-u.ac.jp
附属小学校	0852-29-1200	yaegumo@edu.shimane-u.ac.jp
附属中学校	0852-29-1300	shimafu@edu.shimane-u.ac.jp
医学部	0853-20-2015	igak-sokac@jn.shimane-u.ac.jp
医学部附属病院	0853-20-2061	renkei@med.shimane-u.ac.jp
総合理工学部	0852-32-6095	hri-soumu2@jn.shimane-u.ac.jp
生物資源科学部	0852-32-6492	toiawase@life.shimane-u.ac.jp
附属生物資源教育研究センター	0852-34-0311	ercbr@life.shimane-u.ac.jp
法務研究科	0852-32-9835	houka-in@jn.shimane-u.ac.jp

附属施設・学内共同教育研究施設等	電話	E-mail	
附属図書館	本館（松江キャンパス） 医学図書館（出雲キャンパス）	0852-32-6083 0853-20-2090	library@lib.shimane-u.ac.jp m-kanri@lib.shimane-u.ac.jp
保健管理センター	松江キャンパス 出雲キャンパス	0852-32-6568 0853-20-2098	
総合企画室	0852-32-6605		
評価室	0852-32-6605		
広報室	0852-32-6603		
教育開発センター	0852-32-9860	cerd@soc.shimane-u.ac.jp	
入試センター	0852-32-6073	nyu-nyushi@jn.shimane-u.ac.jp	
キャリアセンター	0852-32-6061	syusyoku@jn.shimane-u.ac.jp	
国際交流センター	0852-32-9756	international@jn.shimane-u.ac.jp	
生涯学習教育研究センター	0852-32-6408	eroll@edu.shimane-u.ac.jp	
総合情報処理センター	0852-32-6091	center@ipc.shimane-u.ac.jp	
汽水域研究センター	0852-32-6099	kisui@soc.shimane-u.ac.jp	
産学連携センター			
地域産業共同研究部門	0852-60-2290	crcenter@ipc.shimane-u.ac.jp	
知的財産創活部門	0852-60-2290	crcenter@ipc.shimane-u.ac.jp	
連携企画推進部門（松江キャンパス）	0852-60-2290	crcenter@ipc.shimane-u.ac.jp	
地域医学共同研究部門（出雲キャンパス）	0853-20-2912	cmrc@med.shimane-u.ac.jp	
総合科学研究支援センター			
松江キャンパス	遺伝子機能解析分野	0852-32-6109	idenshi@life.shimane-u.ac.jp
	RI 実験施設	0852-32-6109	
	物質機能分析分野	0852-32-6122	katsube@riko.shimane-u.ac.jp
出雲キャンパス	実験動物分野	0853-20-2363	
	生体情報・RI 実験分野		brcenter@med.shimane-u.ac.jp
外国語教育センター	0852-32-9837		
ミュージアム	0852-32-6496	museum@riko.shimane-u.ac.jp	
プロジェクト研究推進機構	0852-32-6056	kenkyh04@jn.shimane-u.ac.jp	
男女共同参画推進室	0852-32-9766	kyodo-sankaku@edu.shimane-u.ac.jp	
島根大学・寧夏大学国際共同研究所	0852-32-9735	kks-kouryu@jn.shimane-u.ac.jp	
広島オフィス	082-236-1926	su-hiroshima@jn.shimane-u.ac.jp	

事務組織	電話	E-mail	
総務部	総務課	0852-32-6603	jsy-bunsyo@jn.shimane-u.ac.jp
	人事労務課	0852-32-6018	sji-syokuin@jn.shimane-u.ac.jp
財務部	財務課	0852-32-6023	
	経理・調達課	0852-32-6027	zke-keiyaku1@jn.shimane-u.ac.jp
	施設企画課／施設整備課	0852-32-6044	zki-soumu@jn.shimane-u.ac.jp
監査室		0852-32-6026	zza-kansa@jn.shimane-u.ac.jp
学術国際部	研究協力課	0852-32-6056	
	国際交流課	0852-32-6106	gak-ryugaku@jn.shimane-u.ac.jp
	情報企画課	0852-32-6248	jka-jyohou@jn.shimane-u.ac.jp
	図書情報課	0852-32-6083	library@lib.shimane-u.ac.jp
教育・学生支援部	教育・入試企画課	0852-32-6052	gak-kyoumu@jn.shimane-u.ac.jp
	学務課	0852-32-7029	gakumu@jn.shimane-u.ac.jp
	学生支援課	0852-32-6330	gga-shien@jn.shimane-u.ac.jp

アクセス

Access.



松江キャンパス

空路

東京(羽田)→出雲 約1時間25分
 福岡→出雲 約1時間 5分
 大阪(伊丹)→出雲 約1時間

※出雲空港から空港連絡バス松江行(約30分) J R 松江駅下車

東京(羽田)→米子 約1時間15分

※米子空港から空港連絡バス松江行(約45分) J R 松江駅下車

J R

東京→岡山→松江 約6時間

福岡→岡山→松江 約4時間30分

大阪→岡山→松江 約3時間20分

高速バス

東京(渋谷)→松江 約10時間25分

大阪(梅田)→松江 約4時間40分

岡山→松江 約3時間

広島→松江 約3時間15分

福岡→松江 約9時間

JR松江駅より

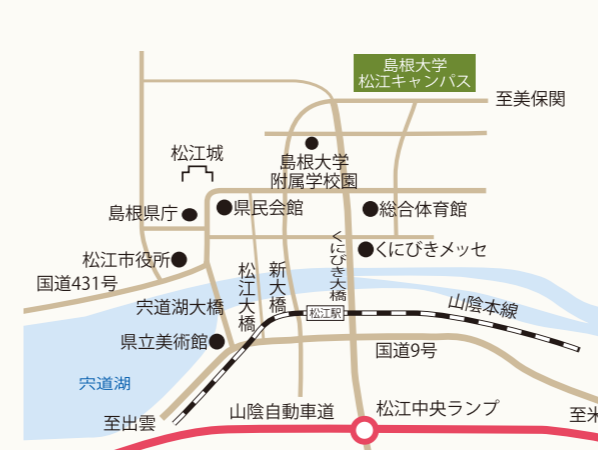
市営バス 北循環線内回り 島根大学前下車 約15分

大学・川津行 島根大学前下車 約20分

※他に「平成ニュータウン」「あじさい団地」「東高校」等もあります。

一畑バス 美保関ターミナル行 島根大学前下車 約20分

マリンゲート行 島根大学前下車 約20分



出雲キャンパス

空路

東京(羽田)→出雲 約1時間25分
 福岡→出雲 約1時間 5分
 大阪(伊丹)→出雲 約1時間

※出雲空港から空港連絡バス出雲市駅行(約25分) J R 出雲市駅下車

J R

東京→岡山→出雲市 約6時間30分

福岡→岡山→出雲市 約5時間

大阪→岡山→出雲市 約3時間45分

高速バス

東京(渋谷)→出雲 約11時間20分

大阪(梅田)→出雲 約5時間30分

岡山→出雲 約4時間

広島→出雲 約3時間15分

福岡→出雲 約8時間

JR出雲市駅より

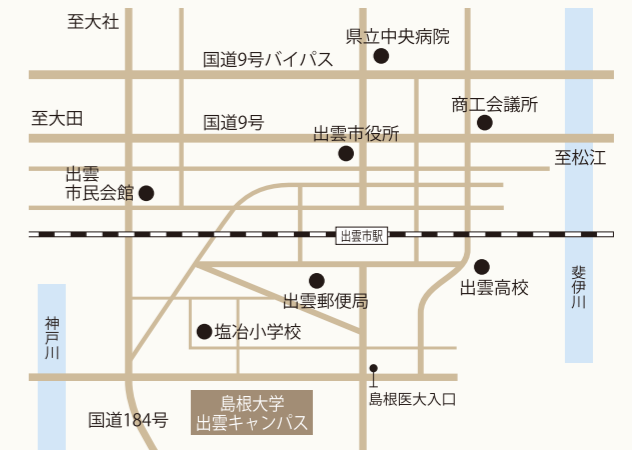
一畑バス

市民会館・島根医大・上塩治車庫行 島根医大病院下車

市内循環左まわり(150円バス)・上塩治車庫行 島根医大入口下車

須佐行 島根医大病院下車(2番のりば)

※須佐行は、朝夕の便で経由しない便もありますのでご確認ください。





人とともに 地域とともに
国立大学法人

島根大学

国立大学法人 島根大学概要 2012-2013

編集・発行／島根大学広報室（総務部総務課）
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060

TEL. (0852) 32-6011

<http://www.shimane-u.ac.jp>

E-mail: webinfo@jn.shimane-u.ac.jp



学 章

総合大学として飛躍し、発展する島根大学を日本海の青色のUで、
知性を愛し感性を育む学問の探究を茜色の扉を本で象徴しています。